

日本語ボランティアシンポジウム2017
わからない日本語、つかってない?
—外国人に伝わる「やさしい日本語」を考えよう—
報告書

東海日本語ネットワーク(TNN)2017年度活動報告

2018年3月

東海日本語ネットワーク(TNN)
(公財)名古屋国際センター

公益財団法人愛知県国際交流協会国際交流推進事業費補助金補助事業

はじめに

東海日本語ネットワーク(TNN)は1993年12月に国立国語研究所主催のシンポジウム「地域の外国人と日本語」をきっかけに結成され、1994年6月に地域の日本語教室間を結ぶ広域ネットワークとして活動を始めました。6月の総会・交流会、年9回の研修会と12月のシンポジウムを開催することで、会員及び一般市民の方々にも参加を誘ってまいりました。同時に交流会を通して、地域の教室同士のつながりの場を提供しています。また、年3回のネットワークニュース発行やホームページにお知らせを載せることで、日本語教育や多文化共生に関する情報をお届けしています。

この東海地域で暮らす外国人住民数は増加の傾向にあり、地域の日本語教室では教室内の日本語学習活動だけでなく、地域のイベントへの参加や、防災教室を行うなど、地域とつながりのある活動に取り組む工夫が広がっています。その反面、教室での学習をより充実させたいと考えている方も少なくありません。TNNでは、こうした会員の皆さまのお役に立てるような研修会を今年度も企画してまいりました。シンポジウムでは『外国人に伝わる「やさしい日本語」を考えよう』をテーマに、日本語教室、行政、多文化共生活動等、様々な角度から考え、意見交換をすることができました。

こうして一年間の活動をまとめご報告できることを嬉しく思います。TNN会員の皆さま、(公財)名古屋国際センター、(公財)愛知県国際交流協会を始めとする関係機関の皆さまに改めて感謝申し上げます。

本シンポジウムおよび活動報告書で、この一年間のTNN活動を再確認し、次の新しい活動につなげていきたいと考えています。この報告書を多くの方と共有することで、皆さまのお役に立てば幸いです。

2018年3月

東海日本語ネットワーク代表
酒井 美賀

目 次

はじめに	i
目次	ii
日本語ボランティアシンポジウム 2017	1
主催者あいさつ	2
交流会：「知り合おう！伝え合おう！私たちの活動」	5
「やさしい日本語」を考えよう：コントでつづる「やさしい日本語」	7
プログラム（当日配布資料）	39
シンポジウム参加者アンケート結果	57
東海日本語ネットワーク (TNN) 活動報告	63
東海日本語ネットワーク 2017 年度活動概要	65
日本語ボランティア研修 2017 記録	66
東海日本語ネットワーク第 24 回総会記録	76
2017 年度 TNN 月例会記録	79
東海日本語ネットワークニュース	84
第 70 号	
第 71 号	
第 72 号	
過去の活動一覧	000
東海日本語ネットワーク規約	000

日本語ボランティアシンポジウム 2017

日本語ボランティアシンポジウム 2017

わからない日本語、つかってない？

—外国人に伝わる「やさしい日本語」を考えよう—

＜主催＞ 東海日本語ネットワーク [TNN]・(公財)名古屋国際センター [NIC]

＜後援＞ 愛知県・愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・国立国語研究所

＜開催日時＞ 平成29年12月2日（土）午前10時30分～午後4時30分

＜場所＞ 名古屋国際センター 別棟ホール

＜対象＞ 一般・TNN会員・NIC会員

＜プログラム＞

・ 10:30～10:50 挨拶 (NIC理事長、TNN代表)

・ 10:50～12:30 交流会

「知り合おう！伝え合おう！私たちの活動」

・ 12:30～13:20 休憩、会場設営

・ 13:20～15:30 「やさしい日本語」を考えよう

コントでつづる「やさしい日本語」

・ 15:30～15:50 総括

講師：岩田一成

（聖心女子大学 文学部 日本語日本文学科 准教授）

・ 15:50～15:55 閉会挨拶

・ 15:55～16:00 アンケート記入

・ 16:00～16:30 交流タイム

主催者あいさつ

東海日本語ネットワーク 代表 酒井美賀



おはようございます。東海日本語ネットワーク代表の酒井美賀と申します。今日は本当にお天気も良く、ご参加いただきありがとうございます。毎年この日本語ボランティアシンポジウムを楽しみに来てくださる方、また今日初めて参加される方もいらっしゃると思いますけれど、交流の時間をたっぷり設けておりますので、どうぞたくさん情報を集めて、自分のものにしてお帰りください。今日のテーマ「やさしい日本語」というのが、最近の皆様の関心の高いところにあるようで、今日は日本語教室の方だけでなく学生、教員、自治体の方などいろいろな方にご参加いただいています。本日の参加申し込みは久しぶりに200人を超えました。午後からの参加の方もたくさんいらっしゃいます。午後の部では「やさしい日本語」をテーマにしたコントをいたします。コント準備は8月に台風の来る中、初日を迎えて、シナリオを書き始めました。それからみんなが揃って練習することは難しく、昨晩ようやく全員そろっての練習ができました。一夜漬けのようですが、大変中身の濃い仕上がりになっていますので、ぜひ楽しみにしていてください。シンポジウム準備、お忙しい中、大変だったと思います。各教室の皆さんもブースの準備、本当にありがとうございました。今日は学生さんもたくさんいらっしゃっていますし、これからボランティアを始めたいという方もたくさんいらっしゃっています。各教室の方からは、ボランティア不足に悩んでいるという声をよく聞いていますので、ここで新しい仲間ができるような繋がりのある交流ができるとうれしいです。本日一日、長丁場になりますが、どうぞ最後までよろしくお願いいたします。





公益財団法人名古屋国際センター 理事長 矢野秀則

おはようございます。矢野でございます。「やさしい日本語」というタイトルで、開催趣旨を拝見させていただき、大変よくできているなと感心しました。昨年も同じ場で、岩波新書の庵先生の『やさしい日本語』という本を紹介しました。その本の中では、「多文化共生の一番の肝っていうのは『お互い様ですよ』という気持ちだ」ということが書かれていました。今日のレジュメの岩田先生の最後のコメントもよくお読みください。庵先生のご指摘と良く響き合っている内容であると思います。

私は、二人の先生の言葉を踏まえて日本語教室で活動している皆さんに二つのことをお願いしたいと思います。

一つは、これからは「インクルージョン」(包摂)という言葉が示すように、できるだけ多くの人が、それぞれの能力を活かして活躍できる社会に変えていかなければいけないだろうなと思っています。皆さん、東田直樹さんという作家はご存知ですか?この人は自閉症です。自閉症の作家が、「障がい者といえども、社会の中に居場所を見つけて健常者と『つながっていく』ことが非常に大事だ」と書いています。この言葉どこかで聞いたことがありますよね?「社会の中で居場所を見つける」というのは、多文化共生も含めて同じような考え方だと思います。世の中、少しずつ潮流が代わってきて少数者に対する理解が進みつつあると思っています。ぜひこの流れを大切にして、「誰も置き去りにしない」考え方を進めていきたいと思います。

二つめは「日本語教室のアップデート」ということです。時代はどんどん変わっています。時代が変わるということは、その変わった状況にアップデートすることも大事な事だと思っています。その多文化共生のアップデート、日本語教室のアップデートってどういうことだろうと一度考えられたらしいのでは、と思っています。1990年代と比べて、これからは日本語教室はどういうところに力を入れていくんだろうか。当然定住化も進む、高齢化も進む、またベトナム人やフィリピン人など定住外国人の層も変わりつつある。一方で子どもたちの置かれている状況はなお変わらない。そんな中、日本語教室もどのように「アップデート」していくべきでしょうか?一つは社会ができるだけ「インクルージョン」という方向に進んでいく中で例えば困っている子どもたちなどへの「集中投資」を行うこと、そしてもう一つの方向として「地域ともっとつながろうよ」という考え方があるんじゃないかなと思います。今、たとえば、都心でも空き家が増えて、なかなか町づくりがうまくいかない、一人ぐらしの高齢者の数も多くなっている、あるいは、災害に強い町づくりを進めたい、と考えた時に、いずれ、必ず定住外国人の力が必要になってくると思います。その際に、日本語教室として、「地域で進めるまちづくり」という考え方ともっとつながっていけば日本語教室は地域にとって本当に欠かせない存在になっていくのでは、と思っています。ぜひ、町づくりの中に巻き込むように、多文化共生だとか日本語教室というものを取り入れていただきたい。そしてその方向を進めていく中では「やさしい日本語」の取組みは大切なツールだと思っています。ぜひ今日はいろいろ議論しながら、楽しくて意味のある交流ができればいいかと思います。

日本語ボランティアシンポジウム 2017



午前の部：交流会

知り合おう！伝え合おう！私たちの活動

午前の部では、東海地域で活動している日本語教室やボランティアグループなどがパネル展示をし、参加者との交流を深める時間としました。昨年と同様にホール内壁面にポスターを掲示したり教材を展示したりして、それぞれの活動の様子を紹介し合いました。今年度は新規参加の6教室やグループを含め25団体のご協力で、昨年度以上に盛況な交流タイムとすることができました。

参加団体を3グループ（A, B, C）に分けて、20分毎に順次ポスター発表する形式で活動報告や情報交換をしました。特に今年度は、OA機器を活用して発表する団体が増えました。教室の理念や活動システムについてパワーポイントやイラストを活用して、分かりやすく解説する教室がありました。実施した体験活動の様子を臨場感のある動画で紹介する教室、教室のホームページをその場で見られるように準備された教室など、参加教室の熱意と工夫が感じられました。

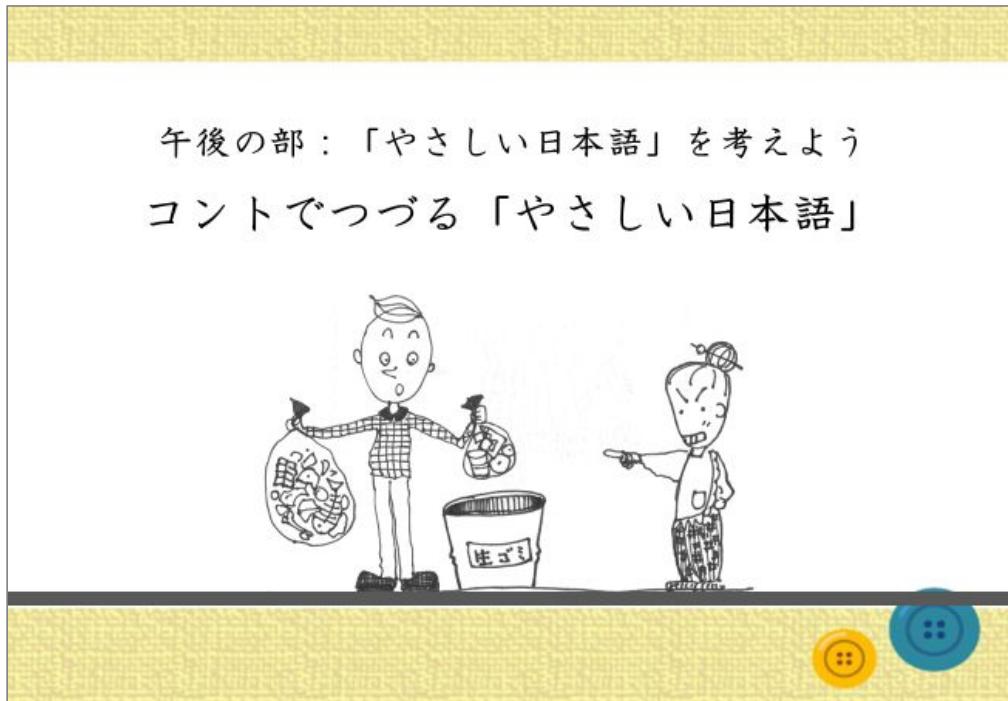


大学で日本語教育を勉強している学生グループが、活動紹介のために大勢で参加し、会場にフレッシュさと活気がみなぎっていました。

参加者は興味・関心のある団体を選んで、各ブースで発表を聞きました。参加者からの質問で白熱しているブースもありました。熱心にメモを取る人、教室の悩みを相談する人、反対に発表教室から課題が投げかけられ情報交換をしているブース…、日ごろ抱いている疑問や課題について交流を深めしていました。

その後、さらに30分間のフリータイムを設けました。再度会場内を自由に行き来してより多くのブースで関係者と話して、充実した時間を共有することができました。

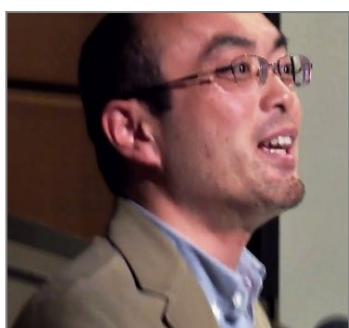
日本語ボランティアシンポジウム 2017



司会：それではただいまから午後の部を始めます。今年度のシンポジウムのテーマは、「わからない日本語、つかっていない？～外国人に伝わるやさしい日本語を考えよう～」です。午後の部ではこのテーマでコントを交えた様々な出し物を用意しましたので、会場の皆さんもお楽しみ頂けると思います。題して、「やさしい日本語を考えよう～コントでつづる『やさしい日本』」です。ここからの司会進行は東海日本語ネットワークの米勢が担当します。では、米勢さん、よろしくお願ひします。

米勢：みなさん、こんにちは。TNN の米勢です。午後の部は、「やさしくない日本語」を使っている場面をコントで再現したり、逆に「やさしい日本語」を活用している事例を紹介したりして、「やさしい日本語」について会場の皆さんと一緒に考えたいと思います。コントの練習も時間をかけてやりましたので、ちょっとお見苦しい点もあるかもしれません、どうぞお楽しみ頂きたいと思います。

本日、助言者として来ていただいたのは、聖心女子大学の岩田一成先生です。岩田さん、自己紹介をお願いしていいですか？



岩田：皆さんこんにちは。岩田と申します。私は、「やさしい日本語」というよりも「やさしくない日本語」に興味があってですね、「難解な日本語」を集めるのが趣味で、そういう本を書いたりしています。そんなご縁もあって今回呼んで頂いています。

あと、地域日本語教室にはずっと大学院生の時から関わっているんですけど、今は、私の本務校、聖心女子大学（広尾）

で、教室を運営しています。いや～もう動かすまでは、面倒くさくてたいへんだなと思っていたんですけど、動き出すと楽しくて、今は毎週月曜日の教室がとっても楽しみです。ボランティアでがんばっています。

会場に来ているインドの方がですね、「正月はインドにいるから、来たら案内してあげる」と言ってくださってるんですが、相手にはご主人もいるので、丁寧にお断りしました。ただ、こういうやりとりが楽しくてこれまでいろいろな教室に通ってきたんだなあと改めて実感しています。

米勢：岩田さん、楽しい自己紹介をありがとうございます。そして、コントを演じてくださる「劇団員」の皆さんがあちらに待機してくださっています。どうぞ温かい声援をよろしくお願ひします。

さて、昨年の4月14日から16日にかけて、熊本で震度7の地震がありました。その熊本地震をきっかけに「多文化防災ネットワーク愛知・名古屋」通称「TABOネット」が立ち上がり、その活動の1つとして愛知県の災害情報を「やさしい日本語」に書き換える事業を行いました。そのまとめ役をされた佐原さんに、事業で苦労されたことなど、お話し頂こうと思います。会場の皆さんにも「やさしい日本語」への書き換え体験をして頂きます。タイトルは「どう伝える？災害情報の「やさしい日本語」」です。では、佐原さん、よろしくお願ひします。

＜1. どう伝える？災害情報の「やさしい日本語」＞

佐原： TABOネットの佐原恵津子と申します。プログラムの方では、国際子ども学校の所属となっております。国際子ども学校と申しますのは、在日フィリピン人の子どもたちが通う学校でして、そちらでの活動をきっかけに、TABOネットの方でも活動に参加させて頂いております。今日は少しの時間ですが、「やさしい日本語」の私たちがおこなった作業についてご説明しますのでしばらくお付き合いください。

初めに申し上げますが、私は、「やさしい日本語」の専門家ではありません。ずっと国際子ども学校という所で、日本語を教えるということはしておりますが、本職は別にあります。なので、今回のこの作業に関わるにあたりまして、ここにいる米勢さん、酒井さんをはじめ、日本語を教えていらっしゃる方や、防災士の資格を持った方など、色々な分野の方々と一緒に作業を行ってきました。みんなで意見を出し合って、一緒に作ってきましたので、その経過報告という形でお話しします。専門家ではないので、どうか「やさしい心」で15分くらいお付き合いください。よろしくお願ひします。

「やさしい日本語」というのは、1995年1月17日の阪神淡路大震災をきっかけに生まれたと言われております。災害発生時にできるだけ早くて正しい情報が得られて、なつかつそれを聞いた人、それを受け取った人が行動に移せるようにすることが大切であると思って、作業を進めてきました。私たちが「やさしい日本語」に変えたこの「多言語情報翻



訳システム」と言いますのは、防災情報だけではなくて、生活情報なども扱っています、

多言語情報翻訳システムとは…

防災情報や生活情報のうち、よく使われる文例（テンプレート）について、ウェブ上で多言語（英語、韓国・朝鮮語、中国語、ポルトガル語、スペイン語）に翻訳することができるシステムです。

その内、〈防災情報559文例〉の「やさしい日本語化」に取り組んできました。

良く使われている文例について、WEB上で多言語に翻訳することができるシステムで、愛知県国際交流協会（AIA）のトップページからこのページを見ることができます。そのうち、私たちは防災に関する559文例を、「やさしい日本語」に変えるという作業に取り組みました。

私たちが心がけたことですが、まずはやはり難しい言葉を避ける。これは皆さん、

普段外国人の方に日本語を教えたりだとか、子どもたちと接するなかで、何気なくやっていらっしゃることだとは思います。難しい言葉を避けて、「徒歩で」ではなくて「歩いて」、「土足厳禁」ではなくて「靴を脱いで」というように、なるべくやさしい、わかりやすい日本語に言い換えるということを心がけました。

あとは、一つの文を短くするということです。「地震の揺れで壁に亀裂が入ったりしている建物に近づかないでください」という文の中では、大事な情報は「危ないので近づいてやいけないですよ、気を付けてくださいね」ということなので、余分な情報は省いて、「地震で壊れた建物に気を付けてください」、あるいは「近づかないでください。」というふうに、聞いた人がどうすればいいのか、どうして欲しいのかということが、伝わる文章を考えるようにしました。

その後、外来語は出来るだけ使わないということです。「デマ」もそうですが、元々原語では使われない略語ですし、「ガスコンロ」なども英語ではありません。そういった外来語、日本語の中でカタカナで表せる言葉だけれど、そのままでは英語として伝わらないようなものは、使わないという原則を使っていました。

あとは名詞化した動詞はわかりにくいでできるだけ動詞文にする。「揺れがあった。」ではなくて「揺れた。」というふうに、動詞の文に変えるようにしていました。

次は曖昧な表現は避けるということです。私たちが、「やさしい日本語」にする中でも、「おそらく」と「たぶん」の度合い、どれくらいの確率なのかということまで、みんなでいろいろ話し合いました。結果的にこのようなものは全て「何々かもしれません」にするのが一番伝わるよねということで、私たちは、「かもしれません」と書き換えました。

私たちが心がけたこと

★ 難しいことばを 避ける。

例：徒歩で → 歩いて

★ 1つの文を 短くする

例：地震の揺れで壁に亀裂が入ったりして

いる建物に近づかないでください

→ 地震で壊れた建物に気を付けてください

★ 外来語は できるだけ 使わない

例：デマ…原語では行われない省略です

★ 名詞化した動詞は わかりにくい ので、 できるだけ 動詞文にする

例：揺れがあった → 揺れた

★ あいまいな 表現は 避ける

例：おそらく、たぶん → かもしれません。

次が、二重否定は避けるというものです。これは普段の言葉の中にはあまり出てこないかもしれません、防災の文例の中では、多くの場面でこれが使われていました。「使えないわけではありません」「通れないわけではありません」。この非常に曖昧な言い方を、「使うことができます」「通ることができます」というふうに言い換えるようにしました。

最後の「災害時に良く使われる言葉や、知っておいた方がいいと思われる言葉は、説明を付けてそのまま使う」というのは、何でもかんでも言い換えればいいということではないと考えました。防災や復興支援活動に関わっている方からのご意見もありまして、報道などで「避難所」「警報」という言葉が使われますので、その言葉をまるっと言い換えてしまうと、その後、続きの情報が来たときに、混乱してしまうかもしれないということで、大事な言葉はなるべくそのまま使い、注釈をつけるという書き方で、私たちは統一するようにしました。

文末の表現は出来るだけ統一するということにも気を付けました。「何々しましょう」と言うと誘っているのか、「何々してください」と言っているのかわかりませんので、「何々しましょう」ではなくて、「何々してください」というふうにしました。他にも、「何々してください」と、ちょっと緊急性が弱いというか、危機感が伝わらないので、本当は「逃げてください」ではなくて「逃げて！」とか「逃げろ！」の方がいいのではないかという意見も出来ました。今回はとりあえず、いろんな方がそれを目にするということで、命令口調ではなくて、「何々してください。」というふうに統一させて頂きました。

この文例は、WEB 上に表示されるものなので、書いて伝える時にはどうすればいいのかなというふうに考えました。電話で伝える、対面でジェスチャーをしながら伝えるように、相手の反応を見ながら他の言葉に言い換えるということができないので、なるべく曖昧な表現を避けて、伝わるように考えました。時間の表記も、24時間表記にするのか、午後何時、午前何時という書き方にするのか、年月日の表記も、元号か西暦か、月、日にちの順番がいいのか、どの書き方が一番伝わりやすいのかということも、少し自分たちの周りにいる外国人の方に聞きながら統一していきました。それから、分かち書きにするということです。皆さんも聞いたことがあると思いますが、意味の切れ目の所に空白を入れて、読みやすいようにという工夫もして、文例を作っていました。

というようなことをみんなで心がけながら作業をしてきました。今日はその中から、プログラムに書かせて頂いた三つの文例について皆さんにも挑戦して頂きたいなと思っています。お手元のプログラムの9ページ目になります。

★ 二重否定は 避ける

例: 使えないわけではない
→ 使うことができます

★ 災害時に よく使われる言葉や 知っておいた方がいいと思われる言葉は、説明をつけて、そのまま使う

例: 避難場所
→ あぶないと思ったら、行く場所

★ 文末の 表現は できるだけ わかりやすく 統一する

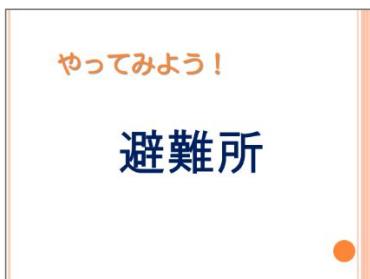
例: 指示するときは、「～しましょう」ではなく「してください」

☆書いて 伝える 時は...

- ・漢字に 気をつける(量・種類)
- ・時間や 年月日に 気をつける
- ・分かち書きにする

実際に「やさしい日本語」にしてみましょうということで、一つ目が「避難所」です。二つ目が少し長い文章になりますが、「津波の警報が出たら、海岸の近くにいる方はただちに高いところへ避難してください」。この文章をなるべくやさしい言葉でなおかつ、これを聞いた人が、次に何をすればいいかわかるような文章に換える挑戦をしてみてください。最後が、「ご自宅にご遺体を安置されている方は、～～課にご連絡ください」です。この「ご遺体」という言葉についても私たちは結構時間をかけてどんなふうに言い換えるのかを考えましたので、皆さんもそれを少し経験して頂ければと思います。今から、5分ほどお時間を取りますので、お隣の方と相談しながらでも構いませんので、少し挑戦してみてください。

三つの文例全部でなくても構いませんので、ご自身の教室だとか普段関わっているあの人伝えにはどんな風に言い換えたらいいのかなというようなことを考えて頂くと、少しイメージが出て来るんじゃないかなと思います。



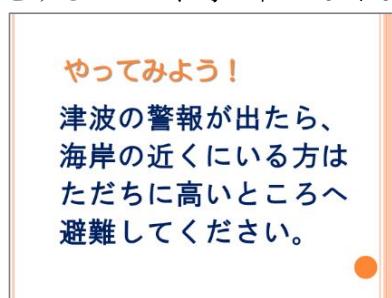
少し早いですが、もうペンが止まっている方がいるような気がしますので。やっている途中でもいいので、まず「避難所」からいきたいと思います。聞いてもいいですか？「避難所」やさしい日本語にしてくださった方、どなたかいらっしゃいませんかね。ありがとうございます。

フロア1：危ないと思ったら行くところ。

佐原：危ないと思ったら行くところ。どうですか、他にありますか？

フロア2：安心な場所

佐原：安心な場所というのも出ました。どうですか？よく他の報告書などを見ると、「みんなが逃げて来るところ」というやさしい日本語になっていることが多いかと思うんですけども。二つの意見が出ました。私たちは、「家に住めなくなったら行く場所」というふうにしました。これは私たちのチームの中に、防災の知識を持った方がいたということが大きいと思います。最初は私たちも「危ないと思ったら行く場所」だと、「みんなが逃げて来る場所」というふうに考えていました。けれども、「避難場所」というのが危ないと思ったらすぐに行く場所であって、避難所というのはそのあとに開設されるもの。その区別をするために、家が住めなくなった時にに行く場所というふうに書かせて頂きました。



では次に行きますね。「津波の警報が出たら、海岸の近くにいる方はただちに高いところへ避難してください。」どなたかいらっしゃいませんか？ はい。

フロア3：「サイレンが鳴ったら高い所に逃げてください。」

佐原：「サイレンが鳴ったら高い所に逃げてください。」

フロア3：あの～、「海岸の近くにいる」場所つというのは、定義がはっきりしないので、混乱しています。可能性があるのでそういう言葉ではなくて、サイレンが聞こえる範囲の人は、とにかく高い所へ逃げてくださいという。警報という言葉が難しいのと避難という言葉もちょっとどうかなと思ったので、サイレンというのも本当に言葉が適切かどうかもわかりませんけど、そういう表現にしました。

佐原：はい。ありがとうございます。もうお一方手を挙げてくださっていたのでお願いします。

フロア4：自信が無くなりましたけど、言います。「津波が来ます。海の近くにいる人は、すぐに高い所へ逃げてください。」

佐原：ありがとうございます。サイレンが鳴ったらという言葉と、津波が来ますという言葉が出てきました。「警報が出ました」とTVとかでテロップで出ますよね。音でというよりは、目で見る情報として津波の警報が出た、発令されましたという時に、それを伝えるためにはどうすればいいのかというようなことを考えました。私たちが悩みに悩んだ結果がこれです。「津波警報（海が1メートルより高くなります。危ないです）が出たらすぐに海から遠くて高い場所に逃げてください。」少し長くなってしまっているんですが、「津波警報が出ました」「津波警報は海が高くなつて危ないことです」というふうに言い換えました。津波というものが海が高くなるということ、よく「大きい波」や「高い波」という表現もされると思うんですけども、高いというのは自分より高いということではなくて、30cmの津波でも危ないので、大きい波、高い波という表現を使わずに津波という言葉を表現するにはどうしたらいいかということを考えて、私たちとしてはこんなふうに換えさせて頂きました。

やってみよう！
ご自宅に、
ご遺体を安置されてい
る方は、
～～課にご連絡下さい。

では最後ですね。これはポイントとしては「ご遺体」ですね。ここをどんなふうに言い換えたか。すみませんが時間の関係でお一人だけ、どなたか、我こそという方はいらっしゃいませんか？「ご遺体を安置されている方は」はい。

フロア5：「うちに死んでいる人はいますか？」

佐原：今言ってくださいました。「うちに死んでいる人はいますか？　いたら？」

フロア5：「市役所に電話してください。」

佐原：「いたら、市役所に電話してください。」だそうです。「死んでいる人がいたら」はいどうぞ。

フロア6：「家族が死んだら～～課に電話してください。」

佐原：なるほど、皆さん「遺体」という言葉を、直接的な言葉に言い換えてくださいました。私たちもそんな風に考えました。「家で誰かが死んだら～～課に連絡してください。」というふうに言い換えることにしました。「死んだ人がいたら」だと、「死んだ身体があったら」だといろいろな意見が出たんですけれども、いろいろ考えた末に、「遺体」という言葉を「死んだら」というような直接的な言い方に換えるのが一番わかりやすいんじゃないかということで私たちの結論としてはこうなりました。

ということで、駆け足でやってしまったんですけれども、自分が普段関わっている方にはどんなふうにしたら伝わるかなということを少し考えながらワークをして頂くことで皆さんいろいろイメージが沸いてきたかと思います。私はただ子どもたちと日本語と一緒に勉強しているだけですが、いろんなメンバーの方々に支えて頂いて、この作業を最後まですることができました。一緒に作業をしたメンバーの人たちがこのあとのコントにも出でていますので、ぜひコントを楽しみに、もう暫くお付き合いください。ありがとうございました。

米勢：佐原さんありがとうございました。私もこの変換作業のメンバーに入れてもらって、防災の専門家とかそういう方が集まったからこそ、勉強することがいろいろありました。日本語教育に関わっていると「やさしい日本語」の専門家になるんですかね。一応その立場から入れてもらってはいるんですけど、じゃー、それだけで出来るのかといったら、やっぱり伝えたいことは、伝える立場の人が一緒に入らないと、その一番大切な部分というのが言葉だけ読んでもはつきりわからないようなことがありました。

岩田先生、何かありますか？

岩田：このシステムは、一応このコントの暗転の間に我々が何かをしゃべるという感じなんですね。はい。何となくわかつてきました。あのやっぱりこの震災場面（1995年の阪神淡路大震災）というのは、「やさしい日本語」という考え方方が日本で一気に普及するきっかけだったんです。その時に我々は外国の方といろんなコミュニケーションを取る必要が出てきて、英語があまり通じないとか、日本語を言い換えると伝わるとか、いろんなことが経験的にわかつてきましたね。まさに今書き換えてくださったように、ちょっと頭をひねるとかなり伝わるというのはとっても大事な知恵なんじゃないかな、と改めて拝見しました。

〈2. 上から目線では?〉

米勢：えー、それでは、舞台が整ったようですので、いよいよコントの始まりです。まずは誰もがお世話になるお役所の「あるある」です。題して「上から目線では？」

オープニング（効果音）

ナレーター：ここは役所の窓口です。職員が書類の書き方を説明しています。

役所窓口職員：え～と。ここ・・・わかる？

外国人：あ、はい・・・

役所窓口職員：それから、じゃ・・・ここはわかるかな？

外国人：えっと～。う～ん。

役所窓口職員：わかったら、じゃここ書いてみて。

外国人：あ、はい・・・。う～ん。ここ？

役所窓口職員：え！ わからないなら、わからないって言わなきやダメじゃない。ね、わかった？

外国人：う～ん。はい。

（心の声）：いつもこうなんです。親切なんだとは思うけど、日本人にはこういう言い方しないですよね。

チャンチャン（効果音）



米勢：はい、ありがとうございました。これまでに日本語教室でも「あるある」ですよね。私もやっているような気がします。「やさしい日本語」のつもりなんだと思うんですけど、やさしくすればするほど「やさしくない！」。いかがでしょうか？

岩田：はい。自治体の職員さんと接してみて思うんですけども、方言や普通体（いわゆるタメ口）でお話をしても親近感を表出する方っていらっしゃると思うんです。ちょっと今の演技の方は明らかに感じの悪い役で演技されて、上手に演技をなさっていたんだと思うんですけど、このへん難しいところですね。例えば一つ橋大学のイ・ヨンスク先生が書いておられますけど、子ども扱いされるのは不愉快だとおっしゃるんですね。こここの線引きなんですね。

わかりやすくしゃべるっていうことと、相手を子ども扱いすることとは実は全然違うんですけど、何となく一緒になってしまふんです。よく「やさしい日本語」を「子どもに話しかけるように」なんて説明される時があるんですけど、「子ども扱いしましょう」ではないというところがとっても大きなポイントかなと。あと、やっぱり相手の日本語能力ですね。かなり日本語ができる方、例えばテレビに良く出ているロバート・キャンベルさんぐらいのペラペラな人に向かってしゃべる時は日本人と同じ対応でいいと思います。一方、そうじゃない人もいらっしゃるので相手のレベルを見てどういう対応をしていくのか、そのへんのさじ加減はかなり重要になってきますね。まだ第1話んですけど、これはかなり高度な話題ではないかなと思いながら拝見しました。

米勢：「やさしい日本語」とはこうですっていうようなものがいくつか出ていて、その中に文末は「です、ます」を使いましょうというのがあると思うんですね。そして今、子ども扱いで、そのタメ口っぽいというのも出たんですが、どうなんですかね、本当に「です、ます」がいいんでしょうか？

岩田：そうですね。一応、学校で教科書ベースに沿って文法を勉強している方は「です・ます」を最初に勉強しますので、最初に「です・ます」という形で話すと伝達効率は高い

はずです。ただ、日本社会には教室で学ばずにいきなり会社に入ってしまうような方もいらっしゃいますので、本当にケースバイケースです。普通体（タメ口のこと）の方が通じやすい場面もありますが、原則は「です・ます」で行った方が無難じやないかなと思います。突然、「ご飯食べた～？」などと聞くのは、かなり馴れ馴れしいというか、やっぱりぞんざいな感じがするので、「です・ます」で「食べましたか？」という形の方が入りやすいんじゃないかなと思います。

米勢：ありがとうございました。距離感みたいなこともあるっていうことですね。

〈3. どうしたらしいの？〉

米勢：それでは次はですね、自治会とか町内会といった地域でのコミュニケーションについて考えてみたいと思います。タイトルは「どうしたらしいの？」です。

オープニング（効果音）

ナレーター：公営住宅の大掃除について自治会長と副会長が外国人に説明しに行きます。

（ピンポーン）（玄関チャイム：効果音）

会長：こんにちはー。今度のね～日曜日の朝、団地の大掃除だけど。これる～？

外国人：・・・？（心の声）：えっ、いつ？ 何時？ どこの掃除？

副会長：出てこれんのなら3千円払ってもらわないといかんよ。うちの自治会のルールやで。今お金もっとる～？

外国人：オ、オ、オカネ？（心の声）：なんのオカネ？ なんで3千円？ その前にこの人誰？ 詐欺？

外国人：オカネ、ナイ・・・

会長：無い？ そんなの困るがね。みんな やっとるんだよ。あんたたち外国人も、ちゃんとやってもらわないかんわ。わがままだわ。

外国人：（心の声）：なんだかわからないけど、知らない人に怒られてる。
チャンチャン（効果音）



米勢：外国人のほうは状況がよく呑み込めていない。相手が誰だかもわからない。唐突に用件を言っても「やさしい日本語」以前の問題がありますよね。このコントを作ってくださった川口さんに実際の事例をお伺いしたいと思います。

川口：はい、「まなびや@KYUBAN」の川口です。このコントはですね、元となった実際のエピソードがありまして、「TABO ネット」の活動の取材で、ある団地に行った時に、自治会長さんから伺った話なんすけれども、自治会費を集めに行くときに、いきなり「お金くださいよ」って言ってしまうと、今みたいに「何なの？」って「詐欺、詐欺じゃないか？」って思われたことがあるらしいんですね。多分私たちは、自治会費を払うとか、この地域に自治会長がいるとか、町内会長がいるとかというのは当たり前に思っているかもしれません、海外から来た方はですね、おそらくそんなものが日本にあるなんてことを知らない。そういう状況で地域で暮らしている方が多いわけです。なので、そこの団地の自治会長さんはですね、日本にこういうシステムがあって、あなたが住んでいる地域には、こういう自治組織があるんだよということを、その外国人の方がわかる言葉で説明をするそうなんですね。その時には、通訳を連れていくわけなんです。その地域に住んでいる外国人のキーパーソンを見つけてですね、そのキーパーソンと一緒に、新しく入居した外国人の方に、丁寧に丁寧に説明をされるということを続けていらっしゃいます。それで、その外国人が多く住んでいる団地なんですけれども、何と外国人住民の自治会の加入率 100%。これ、愛知県内の団地なんですよ。そして、その地域がやる行事には、外国人の参加率 90%。そういう所があるんですねえ。なので、「やさしい日本語」だけではなくてですね、やはり「やさしい気持ち」も大事なんではないかと思いましてこのコントを作らせて頂きました。はい以上です。



米勢：川口さんありがとうございました。今日、自治会関係の方はいらっしゃっていませんよね。まさにそういう方に今の話を聞いてもらうといいなーと思いました。やはり外国人の集住している団地などでは、どうやって理解してもらおうかとか、どうやって一緒に活動しようかっていうのにすごく苦労していると思うんですけども。川口さんが最後に「やさしい言葉」だけじゃなくて、「やさしい気持ち」っておっしゃったんですけど、本当に「やさしい日本語」って、気持ちのやさしい、だからさっきのコントで言うと、相手の状況とか文化の違いとかそういう立場を思いやる気持ちと、言語的な簡単さというか、わかりやすさっていうのがあったと思いますけど。こういうようなお話を岩田さんはどこかで聞いたことはありますか？

岩田：はい、どこの自治会の説明もお知らせは全くやさしくないんですね。その理由はなぜかと言うと、そもそも払って当たり前だと思っておられるので、なぜお金を払わなければいけないかという説明がありません。例えば、私が住んでいるところの自治会費は初年度に年間 6,600 円でしたけど、隣の自治会は年間 1 万円かかります。そこで自治会を知らない人に対しては、1 万円払った時に何が返ってくるのかということを書かないとわからないと思います。

自治会のお知らせを使ってやさしい日本語への書き換え講座をやったことがあるんですが、自治会に関する認識には世代差がずいぶんあるなあと感じました。たまたま会場に大学生がいて、そもそも自治会なんてものがわからない、と言ってくださったことがきっかけ

けで、研修は大変盛り上りました。年配の方にとてはいろいろ気づきの場となりました。自治会費を払うことが当たり前じゃない世代がもっと声を上げていけば、お知らせ類も変わっていく信じています。

米勢：日本人、外国人じゃなく、世代差とかいろんな違いがあつて、そこをどう埋めてコミュニケーションをするかっていうのは大きな問題ですね。川口さんが紹介して下さった事例では、間に外国人のキーパーソンがいて、その方が仲介されたということなんですけれども、そういう人、ちょっとそこをもう少しお話して頂きたいなと思うんですが、そういう人がいなくてもできるのか、彼の役割っていうかね。

川口：そうですね。まずは「やさしい日本語」でもってお伝えすることが大事なのかなと。それで、言葉だけで分からぬ時は、例えば図にしてみるとか。私は名古屋市港区の外国人集住地域である九番団地で活動しているんですが、やはりどれだけやさしい日本語で話しても伝わらない時ってあるじゃないですか。それがまた（その方の言葉が）インドネシア語だったり、ミャンマー語だったりすると、いくらがんばっても伝わらない。そういう時にはですね、わかりやすく図に書いて説明する。だから説明するというのはすごく面倒くさいことかもしれませんけれども、そこをどう丁寧にやっていくのかが、いい人間関係を作っていく大事な礎となるところじゃないのかなと思います。

米勢：ありがとうございます。じゃ私ちょっと誤解をしていて、そこには同胞の、団地に住んでいる外国の方がいらして、その方が非常に町内会に理解があつて、間に入って、彼の存在ですごくうまくいったように思っていたんですけど。

川口：その団地はですね。ペルーとブラジルの男性ですね、お父さんですね、キーパーソンとなって仲介をしている。自治会長さんと一緒に地域のことを考えている。だから、行事も、例えば、ごみ掃除とか、公園を整備する時もあるんですけども、「一緒にやろうよ」って言って、皆さんに呼びかけているんですよね。そのペルー人とブラジル人のお父さんは、外国人にだけに呼びかけているわけじゃないんですよ。日本人に対しても、おじいちゃん、おばあちゃんに、「来週、草ぬきあるんだけど出れるかなー」と言って呼びかけるし、そこにはもう国籍は関係ないんですよね。その地域のことを、そのブラジル人の人とペルー人の人は大好きだから、大好きだからこそ、その地域のことに関わりたいと思っているのがベースにあって、キーパーソンという役割、仲介という役割をやられているんだというふうに伺いました。

米勢：私は言語的な仲介をする人がいないと、なかなかうまくいかないので、そういう人を探さなきやいけないのかな、みたいなことを思いながら話を伺っていたんですけども、そうじや無いっていうことですね。その団地の中で、団地でみんなで仲良くやっていく方法を一生懸命考えてくれる人さえいれば、それはどんな背景であろうと、多分やれるることは非常にいろいろあるのではないかというふうに思いました。

さきほど、町内会費の金額の差に、「えっ首都圏はそんなに高いの？」と思って聞いていたのですが、多分そういう違いもあるのでは。

岩田：去年朝日新聞で、ずっと連載をやっていたんですけど、地方ほど高いと書いてありました。年会費は1,000円から2万円まで幅があり、入会金と称して5万円・10万円と徴収されることもあると書いてありました。皆さんのお反応を見ていると、愛知は安いんですね。

米勢：本当に自治会文化も、日本地図の中でもすごく違うし、名古屋の中でもきっと一つずつ違うんだろなというふうに改めて思いました。皆さんもまた、いろんなことがわかつたかもしれません。

岩田：この話はどこでやっても盛り上がるんですよね。自治会の話はなんか皆さんいろいろ興味がおありで。

〈4. 説明のことばが難しい！〉

米勢：では、いよいよ日本語教室における「やさしい日本語」について考えてみたいと思います。本来なら、日本語教室って、一番「やさしい日本語」が使用されるところですね。「やさしい日本語」最前線と言っていいはずなんですが、そんな場所の「やさしくない日本語、ある、ある」をピックアップしてみました。最初のコントでは、会場の皆さんにも是非議論に参加して頂こうと思います。題して「説明の言葉が難しい！」です。

オープニング（効果音）

ナレーター：日本語教室の活動風景です。ボランティアと学習者のやり取りをお聞きください。

ボランティア：今日は、物や人などの存在を表すときに、どう言えばいいか勉強しましょう。存在ですよ。存在。

学習者3人：そんざい？

・・・そんざい？・・・そんざいない？

ボランティア：書きますよ。

学習者3人：はい。

ボランティア：物（漢字）。物の時は、「～があります。」物の時は、「～があります。」と言います。

学習者3人：はい。

ボランティア：人や動物など

学習者3人：動物、動物？ 何？（ひそひそ）

ボランティア：の時は、「～がいます」。人や動物などの時は、「～がいます」と言います。わかりますか？



学習者3人：はーい。

学習者エリカ：・・・

（心の声）わかりませんとは言えないよね。・・・ま、ここは笑顔で。

ボランティア：はい。じゃ、やってみましょう。

学習者3人：はーい。

ボランティア：机があります。はいどうぞ。

学習者3人：机があります。

ボランティア：はい。先生がいます。

学習者3人：先生がいます。

ナレーター：このように、周りの物や人を使って、ひとしきり練習を行いました。

ボランティア：じゃあ次に物や人がいくつあるか、何人いるかを勉強しましょう。じゃあまず、物の数え方から練習しましょう。

学習者3人：はい。

（リカルドの心の声）：ま、一応、あいさつの「はい」で、いつものように流しておこう。

チャンチャン（効果音）

米勢：はい。会場の皆さんのが日本語教室では、もう少し工夫して、活動されていると思いますが、一緒に活動しているあの人聞いてもらいたいなーと思った方もいるかもしれません。では、ちょっと明るくしてもらって、周りの人と今のコントのいったい何が問題なのか、どうすればいいのかちょっと話し合って頂けますか？

米勢：さて、延々と議論が続きそうなところもあるんですが、そろそろまとめて頂いて、どんなことをお隣さんとお話ししたか、ちょっとお聞きしたいなと思います。言いたいという方がいらっしゃいましたら、ちょっと挙手をしてください。いかがですか？ じゃちょっとマイク係の方、お話しを伺いに行っていただけますか？

フロア7：あのへやっぱり、イラストとか貼り絵とか使って、人や動物と物とが、います、ありますというのが違うというのを、まとめて絵で示す、図で示すというのが一番わかりやすいと思いますけど。

米勢：絵とかイラストを使わないと、言葉だけではわかりません、という意見ですね。他にはどうでしょうか？

フロア8：外国人の目線で、外国人なんですけれども、まず漢字ね。わからない。いきなり漢字書くなんか。わかりませーん。あと先生は、生徒の様子を見てないね。みんなそわそわしています。これ無視して、もう自分の授業ね、先生の授業をやりたいんだから。それでいいと思っているから、それも配慮せずに、どんどん進んでいく。先生は、自己満足。でも生徒は、どうなっているんですか？ かわいそうだなーと思いました。外国人の目線で申し上げました。すみませーん。

米勢：ありがとうございます。いいお話を聞けて良かったです。ボランティアの名演技があってこそだったと思います。もうお一方くらいいかがでしょうか？

フロア9：私も初めに漢字を使うのはどうかなと思いました。それと、途中で確認しながら「わかる？」っていう言い方はいけませんけども、もうちょっとわかっているかどうかというものを学習者さんたちの態度なり、言葉なりで確認しながら進めると、もうちょっと良くなるんじゃないかなと思いました。

米勢：はい。ありがとうございます。突っ込みどころ満載のコントだったと思うんですけど。絵でとか、言葉の難しさも出て來たし、それから、一応ね、ボランティアさんは「わかる？」って聞いているんですけど、学習者の様子を見ていない、ちゃんと本当にわかっているか確認していない。2つの点での指摘があったんですけど、それについてはいかがでしょうか？

岩田：今ご指摘頂いたのもその通りで、もう少しイラストを入れた方がいいとか、いきなり漢字は難しいとか、つっこみどころはありますね。もちろん3人が全員中国人だったら問題は無いと思うんですけど、見るからにキャストさんは、中国人ではない設定で選んでやっておられるので、本当にごもっともなご意見だと思います。

ちょっと違う視点でお話をさせてください。そもそも「文法を解説するというのは言語の運用につながるのか？」ということを真面目に考えた方がいいと思うんです。「ほぼ意味がないだろう」という意見も出ています。ですから、文法解説自体が無くてもいいんじゃないかと言われると、今のお話はかなり根本的に破たんしてしまうんですね。今回のような「います、あります」程度のわかりやすい文法解説、比較的ルールがシンプルな文法に関しては、これくらいは教えてもいいんじゃないという賛成意見もたくさんあります。

ちなみに、難しいルールの文法解説については批判が多いです。「て形の作り方」とか「とばたなら」の使い分けといった定番の文法解説は、かなり難解です。まず日本人が聞いてストンと落ちないような文法説明はちょっとと考え直した方がいいのではないでしょうか。もちろん試験対策としては有効ですが、ここで議論しているのは言語の運用につながるのかという話です。

米勢：「やさしい日本語」とはちょっと別の観点ですが、教室活動として、たとえやさしく文法項目を伝えることができたとしても、ということですね。

岩田：そうですよね。例えば「て形」の作り方なんて、歌が一曲できるくらいルールが長いですよね。まーそういう複雑なルールは、わかったところですぐに使えるようにはならないですよね。モニターといって間違ったときに自分で気づく能力にはなるんですけど、運用にはかなり疑問があるんじゃないかと言われております。

米勢：ところがですね。実際には、文法積み上げ型のテキストが最も良く売れていて、ボランティアの教室にもそういうのがどんどん使われているという現実があります。それから日本語教師養成講座という民間の420時間というのがありますけど、そこで教師を養成

するためには、文法をいかにうまく教えるか、だからさっきの「います、あります」が、わかるようにちゃんと教えられる先生、みたいな部分がありますよね。これは、日本語学校とかそういうところと地域とは別だよと考えればいいわけですか？

岩田：全く別物です。日本語学校では300時間かけて1500の語彙と160の文法を積み上げれば初級が終わるという設定をされていますけれど、地域では無理ですよね。週に1時間程度で300時間を確保するには何年かかるんだっていう話です。文化庁が指針を出しているように地域は全く別の方法論で動くべきです。養成講座とか日本語学校をモデルにしてはいけません。ただ、みなさんご存知の初級の有名教材がありまして、それを使ってしまうと、日本語学校のモデルを地域で真似してしまうことになります。そこが難しいところです。しかし、午前中の発表を見させていただくと、他の教材を使っているところも増えてきており、少しでもバリエーションが出てきているのはいい傾向だなあと拝見させていただきました。

米勢：じゃどうするんだというところがやっぱり残る課題ですけど、今日は「やさしい日本語」の方に戻って先に行きたいと思います。

〈5. 敬語はやめて！〉

米勢：それでは次も同じく、日本語教室での活動の様子です。タイトルは、「敬語はやめて！」です。

オープニング（効果音）

ナレーター：今から活動が始まります。ボランティアが学習者に話しています。

ボランティア：今日は、交通安全について学んで頂こうと思います。皆さんの中にも自転車に乗られる方がいらっしゃると思いますが、

学習者全員：いらっしゃる

・・・ざわざわ

ボランティア：いかがですか？ もしいいらっしゃいましたら、ちょっと挙手をお願いいたします。

学習者A：きょしゅ？ ・・・
ざわざわ

ボランティア：いかがですか？

学習者B：えー、いか？ いか
か？ ・・・あーあーいかいか

ボランティア：実は最近、自転車の交通ルールが変わったのですが、そのことについてご存知の方はいらっしゃいますか？



学習者B：ござんじ？ ぞんじ？

学習者C：ぞんじ？ なに？

学習者A：ぞんじ？ · · ·

学習者全員：わかんない。 · · · ざわざわ、笑おう · · ·

ボランティア：今日は警察の方をお招きしていますので、

学習者B：マネキンが来る？ · · ·

学習者A：けいさつ？

ボランティア：一緒にお話を伺いたいと思います。

学習者全員：うか？ うか？ · · · うかぶだって、うかぶ？

学習者B：(心の声)：ボランティアの人はすごくいい人です。でも何を言っているか全然わかりません！

チャンチャン (効果音)

米勢：う～ん敬語ですね。意外と使っているんですかね。今のコントで「いい人だけど、言っていることは全然わかりません。」というのに何かすごく共感したんですけど。普通は誰もみんないい人で、そしてみんな敬語を使うんですね、親しくなれば別ですけれど。ボランティアの中にはそのことに気がつかない、特に丁寧な対応をする方は、自分がいつも接しているとおり、学習者の人にもやさしくしなきゃいけないと思って丁寧に対応するので、一番いいことをしているって多分思っていらっしゃるんじゃないかなという気がします。こういったところをどうするのかなーって思います。さっきの、お役所での子ども扱い、上から目線と真逆のような気がするんですけども、気が付かない人はどうしたらいんですかね？

岩田：気が付かない人にどうしたらいいか？ すみません、そういう想定はしていなかつたので。でも会場に来て今日話を聞いて、あーって何か感じ取られている方は、多分あまり問題ないんですよね。普通に上手にやっておられる様な気がします。問題は、今日来ておられない方ですよね。えーそういう方に、どう伝えていくべきかというところに米勢さんは悩んでおられるのではないかと忖度しているんですけど。はい。

この敬語の話は、「です・ます」も立派な敬語であるということがあまり共有されていないところに問題があります。「召し上がる、頂く、参る、いらっしゃる」だけが敬語ではないのです。尊敬・謙譲語を使うレベル、丁寧語「です・ます」を使うレベル、どちらも敬語です。その中で丁寧語は「です・ます」を付けるだけで、活用ルールがとてもシンプルなんです。ですから、「食べます」「寝ます」のような丁寧な形は、外国の方は、最初に勉強するんですけど、今スキットに出てきたような、「頂く」とか「いらっしゃる」、「お乗りになる」とかは、尊敬・謙譲と言つて動詞の活用の中でも最後に習います。

ここでは丁寧語と尊敬・謙譲語のスイッチがどれだけ意識的にできるのかが重要になります。現場で教えておられる方はすでにご存知の話でしょうが、こういう感覚は一般の母語話者にはほとんどわからないので、「敬語でしゃべりなさい」っていう時に、すぐに尊敬・謙譲の話になってしまいます。丁寧語でもいいんだということを徹底していくことが大事なんだと思います。本人は丁寧にしゃべろうとして、前向きな姿勢でやっておられることなので、なかなか批判もしにくい所があるんですよね。

米勢：やっぱり職場の窓口とかね、市民に対する窓口で要求されるのは、今言った「です・ます」の丁寧さではなくて、市民であるお客様を、本当に大切にしているんですよという気持ちを表さないといけない。私が若いころのお役所は「えらそうに対応する」というのが定説だったんですけど、今は違いますよね。本当に丁寧なもの言いをされる。それが逆に、やさしくない、わかりにくい、というようなことがあるということですね。職員研修を変えて頂いた方が。企業研修なんかは、顧客に対するとかどうしているんですかね。営業マンなんかは。企業の方いらっしゃいますかー？ かなり徹底的にいわゆる敬語、尊敬語・謙譲語を徹底して使えないダメなんではないですか？ 技術畠もですか？（会場から：営業という声）

そうですね。外国人の昔の教え子がね、ある日ばったり1年後に会ったら、すごいんですよ。実際の現場ではこんなに上達するのか、私日本語教師を何のためにやっているんだろうかと、すごくショックを受けるくらい上手になっていて、「先生、ご無沙汰しています。」とか言っちゃって。実は住宅販売の営業なんですね。「今は外国人の人にもそういうニーズはあるの？」と聞いたら、「いいえ、日本人のお客様を相手しています。」って言って、で、「どうやってその日本語は手に入れたの？」って聞いたら、「もう自分は、耳をダンボにして周りの人たちが」日本人ですよね、「どういう接客をしているか、どういう電話対応をしているか、必死で聞いて学びました。」って言ってました。それがモデルになる。日本語教室の中では、そういう意味では、飛び越えたモデルではなく、本当にお互いにわかりやすいモデルを、いわゆる、尊敬・謙譲ではなくて、「丁寧」というレベルのシンプルな「です・ます」で対応できるとそれが学習者にとってのモデルになってというような考え方でいいのかなと思いました。何か補足がありましたら。

岩田：敬語で尊敬・謙譲の話なんですけれど、日本人の若い世代もできない人はいると思います。なので、そもそも何で初級の外国人に教えるんだっていうところが私は疑問です。私自身、尊敬・謙譲をしっかり使い出したのは社会に出てからですし、おそらく多くの日本人も就職したりして社会に出て使うようになって、ちょっととずつ上手になっていくと思うんですよね。日本語が話せるようになってからじっくり時間をかけて、尊敬・謙譲をマスターしていくんだと思います。ですから、初級レベルの外国人に尊敬語・謙譲語を使わせようとする今のシラバスは再検討が必要だと思います。

〈6. 方言ってどうなの？〉

米勢：ありがとうございました。最後のコントに行きたいと思います。最後のコントも日本語教室からお届けします。タイトルは「方言ってどうなの？」です。

オープニング（効果音）

ナレーター：日本語教室でゴミの分別について学ぶ場面です。日本人ボランティアの話にご注目ください。

ボランティア1：はい、では今日は、ごみについて勉強します。では鈴木さんお願ひします。

ボランティア 2 : ほんじやごみの分別についてやります。皆さん知つとるわねー?

学習者 1、2 : あーはい。

ボランティア 2 : 分別 わかっとる~?

学習者 1 : ぶんべつ~? うん・・・

ボランティア 2 : ごみを一、ごみを一、曜日で分けて出すこと。可燃ごみは、もえるごみ。不燃ごみは、もえんごみ。

学習者 1、2 : もえんごみ? もえん?

ボランティア 2 : 資源ごみは、ま 1 回使えるごみだわね。

学習者 2 : えっ? 何ていった? もえ? もえ?

ボランティア 2 : 何でもかんでもいつしょくた にほかったらいかん。

学習者 2 : いま、なにご? にほんご? いつしょ?

学習者 1 : しょくた?

学習者 2 : まーごみね。

ボランティア 2 : まーいーわ。ちやつ
とやってみて。

学習者 2 : チャットやるんだって。ほ
らリカルド。

ボランティア 2 : 入れてみて。

(作業開始・・・学習者 1 - リカルド
が、カンを燃えるごみの袋に入れる。)

ボランティア 2 : ちょっとまちやー。

学習者 2 : まっちや。まっちやだって、
まっちや。・・・

ボランティア 2 : これ燃えるごみ。こ
れ燃えるごみの袋だよ。

学習者 1 : もえる?

学習者 2 : もえない。もえない。・・・

ボランティア 2 : いかんて、カンカン
はもえんがね。

学習者 2 : もえないよ。はいはいはい!

モエンってなんですか?

ボランティア 2 : もえなに?

学習者 2 : ドラえもん?

ボランティア 2 : もえるごみは、ひいつけたら、ぱっぱっともえるがね。

学習者 2 : ぱっぱっと? ごみはぱっぱっと?

ボランティア 2 : もえんごみは、もやせえへんで、もえ~せんがね。

学習者 2 : もやせえへん?

学習者 1 : もやもや?

学習者 3 : もやもや? わからん~。

ボランティア 2 : まいっぺんやってみて~。

学習者 1 : まいっぺん?



学習者2：何ていった？

学習者1：まっぺん？

学習者2：やって。やっててこと。

学習者1：だいじょうぶ。

ボランティア2：あ～ん。ちょっと酒井さん。この人ら日本語わかつとれせんの～。

ボランティア1：そんなことないと思う。鈴木さん、鈴木さん、もえんは、わからんと思うね。だから、聞いてね。

学習者1、2、3：はい。

ボランティア1：紙のごみね。ここ。はい。これはもえます。もえます。

学習者1、2、3：もえます。

ボランティア1：それからこれは、もえません。

学習者1、2、3：もえません。

ボランティア1：わかりましたか？

学習者3：あ～これはもえません。そうですか。わかりました。

ボランティア1：じゃやってみてください。

学習者3：これはもえる～。これはもえます。

（学習者1-リカルドが、カンを不燃袋に入れる。）

ボランティア1：ちがう。もえない。

ボランティア2：いかんて。あっ、カンカンは、

学習者1：もえないです。

ボランティア2：カンカンは、もえんごみって。あつもえないごみ。

学習者2：わからん。

学習者1：もえん、もえないごみ。

ボランティア2：もえないごみ。

学習者2：かえろ～、かえろ～。

ボランティア1：どこですか？ もえないごみ。もえないごみはどこですか？

ボランティア2：リカルドさん、まちがえたらいかんよ。いかんて。カンカン、カンカンは・・・

学習者1、2：もえない、もえない。

ボランティア2：これはもえんけど、資源ごみだわ。

学習者1、2：しげん～？しげ～ん？

ボランティア2：ま～いかん。もう、ややこしくて、わっからへん。こんなこと。

学習者1、2：しげちゃ～ん。

ボランティア2：酒井さん。ま～やめよまい。

チャンチャン（効果音）



米勢：はい。ありがとうございました。名古屋弁の鈴木さんの演技、素晴らしかったと思います。やさしい日本語で伝えようと、本当に一生懸命がんばっているようなんですが、でもなかなか伝わらなかつたですね。ボランティアさんによつては、自分が方言を使っていることに気がつかない、さつきの敬語と同じですね。気が付かない人もいると思いますし、それから、逆に、地域の日本語教室では方言をもっと使うべきだと考へて、意図的に使っていらっしゃる方もいるかもしれません。これ、教室によつてずいぶん違うかもしれないんですけども、周りの地域では、本当に普通に方言が使われている所もあるかもしれないと思うんですね。ちょっと方言について、少し話し合いをしてもらいたいなと思います。実際に自分の教室で、方言はどのように扱われているかっていうことと、そして学習者の人たちは、どのような日本語に接しているのか、じゃあ教室での方言使用は、どんなふうに自分たちは考えたらいいんだろうかという、3つくらいの視点で少し話し合って頂けますでしょうか。よろしくお願ひします。

米勢：はい、いかがですか？ 少し議論ができましたでしょうか？ 今私たちがここでちよこちよこってしゃべっていたのは、この問題ってすごく難しいよねっていうことでした。なのでそれぞれの考え方を出して頂いて、そしていろんな見方や考え方があるんだなということを共有したいと思います。それから外国人の視点、方言にどうやって接していく、どんなふうに思つてているかっていうお話も是非聞いてみたいなって思います。それじゃあ会場の皆さん、誰からでもいいので是非話し合ったご意見をください。よろしくお願ひします。いかがでしょうか？

フロア10：私の場合なんですけども、私が教えている・・・

米勢：すみません。できれば地域、どこの教室の話かっていうのを言って頂くといいと思います。

フロア10：名古屋市内です。平日の夜の教室ですので、学習者の方が、働いている方がほとんど仕事が終わってから来られているので。私は、名古屋弁と共通語両方説明するようになっています。会社で共通語は必要だと思うし、生活する時に地域の言葉も必要だと思うので両方をやっています。

米勢：ありがとうございます。じゃあ職場は、名古屋弁じゃあ無いっていうことなんですか？

フロア10：それですね。名古屋弁の会社の人もいるし、やっぱり大手の企業だと共通語になってくるので。

米勢：職場によつても違うってことですね。はい、ありがとうございます。今の所は、両方覚えてもらおうって考え方でやつてることでした。他にはいかがでしょうか？ はい、どうですか？ それいろいろな地域があつて少しづつ状況が違うと思います。

フロア1 1：犬山市のシェイクハンドです。こちらで話していたのは、あえて修正する、共通語とか標準語で話すような必要はなくて、自然に出てくるようなものであれば、それでしゃべるのがいいのかなっていう感じです。今までのコント4、5、6で共通しているかと思うんですが、もし学習者の人たちがそれで混乱するようだったら、こちらがそれに気づいて直すっていうのも必要なかなと思いながら。僕らのところは子どもも大人も勉強しに来るので、子どもはもう学校で、地域の言葉を使っていりし、大人の方も普段職場の人たちは、その地域の言葉でしゃべっているだろうっていうことで、あえてそこまで修正する必要は無いのかなっていうような話でした。



米勢：学校も地域も学習者として来る人たちは、日本語の支援教室以外では、地域の言葉を使っている。なので、あえて方言じゃない言葉を使う必要は無いっていうことですね。自分たちはもう地域に溶け込んだ言葉を使っているので、うちの教室ではその地域で普通に使われている方言を使っています、というようなことですね。はいありがとうございます。今お二人、最初の方は方言もちゃんと必要なので、両方どちらもわかるようにということでしたし、二人目の方は、自然にそこで使われている方言を使っていますということでした。

あのう、私自身はそういうことを考えたことが無かったので、このテーマを考えた時に、意外というか、え？方言で教室をやっている所ってあるんですか？っていうぐらいのリアクションだったんですね。でも、やっぱりその教室によっては、方言を使うべきかべきじゃないっていうようなことでボランティアさんが議論している所もあるって聞いたので、あ、これはみんなで考えなきやいけないというふうに思ったんですけど、他にはいかがでしょうか？

フロア1 2：すみません。方言は確かに自然体で話せたらいいなと思うんですけども、教えるっていうかボランティアをさせて頂く立場の人間自身が、方言ネイティブじゃないので、非常に難しいなと思うことがあります。で、その方言ネイティブの人たちが、方言を地域の人の言葉としてしゃべっているのはいいんですけども、私みたいに自分自身が国内を転々としている人間が、じゃあ地域の言葉の方言でって言われても私自身がわからないっていうそういうこともあるかなっとも思います。

米勢：その通りですよね。だから自分のネイティブジャパンーズは、その地域では、蓋をしているんですか？

フロア1 2：残念ながら東京生まれなので、方言が無い。

米勢：大丈夫なんですね。私が体験したのは、関西の方は、わりと普通にどこに行っても関西アクセントで貫き通すみたいなところがあって、そうじゃないと気持ちが伝わらないような気がするとおっしゃるんですね。この自分のネイティブのその言語で言うからこそ私の言いたいことがちゃんと伝わるっていうのも、そう言われてみるとわかるけれど、か

なり強い部分があると思います。そんなことを言いながら、名古屋に5年も10年もいるとその関西弁もあやしくなってくるんでしょうが。はい、ではもう1人くらい聞きましょうか。どうですか？　はい。

フロア13：例えば外国人が日本語教室来ていますよね。彼らのこれから先のことを考えて、もし母国に帰った時に方言しかわからなかつたとした場合どうなるのでしょうかね。それからまた方言は地域であるいは、春日井なら春日井、名古屋なら名古屋だけで生活している人にとっては別に問題無いと先ほどおっしゃられたように、東京へ行ったり、北海道へ行ったり、いろんな所へ行った時に、その地域の人たちと理解し合えるにはやっぱり共通語、そういうことが非常に大切な、外国から来た人にはやはり日本一番基本になる共通語と言われる言葉を教えていくことがまず大事ではないかと思いますね。それを充分理解した上で方言、そういうところを考えてみたらいかがでしょうね。そんなふうに思います。

米勢：はい、いくつか出ました。一つは学習者が生活の中で使う言葉は必ずしもその地域の方言だけではないので、困らないようにいろいろと対応したいというのと、もうそういう方言系の地域が生活圏なので教室でもそれで対応するのが自然じゃないかというのと、それからボランティアがネイティブじゃない、方言ネイティブじゃない時に対応するのはどうしたらいいの？　すぐできないでしょということと、それから学習者の帰国後、移動を見据えて、教室ではその地域に固定した対応ではダメなんじゃないか？という意見があって、どれももっともという気はしましたけれども、岩田さん、何か感想なり。

岩田：この方言の話はそんなに簡単に答えは無いと思うんですね。「やさしい日本語」の大原則は、じっと目を見て相手がわからないそぶりを見せたら言い換えることです。これは敬語であろうが方言であろうがタメ口であろうが、同じです。とりあえずポロッと自然に出た言葉というのはやっぱり皆さん的一番自然な言葉ですので、そこは否定しなくていいんじゃないかと思います。問題はその次で、方言がポロッと出て相手がわからない顔をしているのに、コントのようにずっと方言でしゃべる人です。ああいう河村市長みたいな方が名古屋にどれだけいらっしゃるか私にはわからないんですけど、二言三言方言を出してみて、ダメなら共通語に変えるっていうスイッチは重要です。基本は共通語で行きましょうというのは、それはいいと思うんですね。

方言や難解な言葉がポロって出てしまった時に言い換える能力がまさに「やさしい日本語」です。言い換えるところをちゃんと守って頂ければ、特に方言だからダメっとか言わなくてもいいと思います。

私はいろんな教室の方の話を聞いていると、方言をしゃべったがために、ちょっと教室で肩身が狭くなったり、および教室から追い出されたなんていう話を聞くことがあります。そういう誰かを排除するというような理屈に方言を使うのはまずいだろうなと、いつも聞いていて思います。方言は、その教室がある地域のローカル言語であれば、リスニングの練習としてちょっとあってもいいと思うんですね。もちろん外国人に発音させる必要は無いですよ。外国人にリピートさせるなんてのは論外ですけれど、皆さんのがポロっと言う分に関して、そこをあまり目くじらを立てない方が、多分寛容な日本語教室になるんでは

ないかなといつも思います。

米勢：方言排除、方言を話すボランティアさんはそこで肩身が狭くなる、ということですか？

岩田：そうですね。主観的なイメージですが、東京・横浜以外の関東圏はそういう傾向がある気がします。共通語意識が強いというか。方言でもめている話はちょこちょこ聞きます。もちろん、追い出されるなんていう例は本当にレアですよ。

米勢：東京方言を、標準というふうに言ってもらいたくないですよね。

岩田：はい。

米勢：その地域その地域でそれぞれの言葉があっても、いわゆる標準語とか共通語にならしていこうという動きが昔ありましたけれど、ある時からそういったものが変わってきて、地域ごとの言語を大事にしていこう、例えばアナウンサーのトレーニングなんかもう絶対的に標準語に矯正するっていう時代から今は地域のアクセントとかそういったものを活かすようなレポートなんかもするようになってきたので、やっぱり全体的にこれも多文化多言語というかね、そういったような方向性はあるのかなっていう気がしないではないんですね。そういうふうに考えていくと、「ねばならない」というのはないという、そこですかね落としどころとしては。

岩田：ちなみにですね、最後の私の総括コメントの所にもちょっと書いているトニー・ラズロさんという方がですね、顔が欧米系だといくら日本語でしゃべっても返事してもらえないっていうようなことを漫画の中で言っておられます。トニーさんが解決策として言っていたのは、べたべたの方言でしゃべると、日本人はすぐに返事をするというものです。「あのへすんまへけど～」みたいな関西弁でもいいんです。これは何かちょっと面白いなと思いながら読んでいたんですが、我々はどうも顔で判断してこの人日本語できないとか判断するんですね。それは、方言をしゃべったとたんに変わるみたいなんですね。方言には何か力があります。

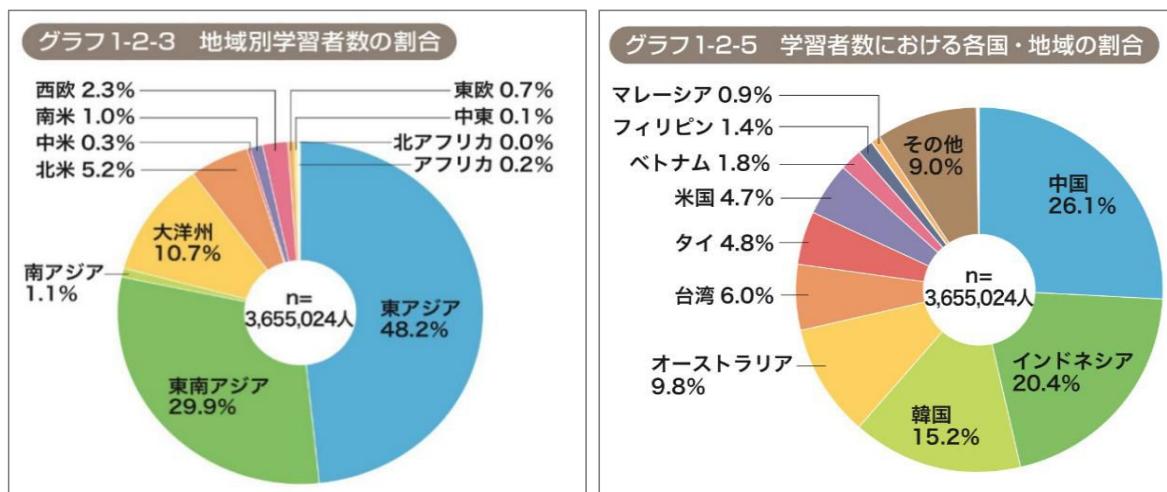
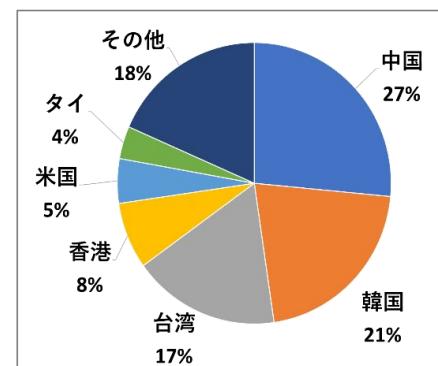
米勢：子どもが幼稚園から小学校に上がったとたんに、べたべたの方言になる。それは、学校の中のおそらく先生方の影響だと思うんですけど、だから学校教育というのは、本当に伝統的にそういった要素があって、転勤族なんかすごく多いはずんですけど、そんなふうにあまり考えないんだと思うんですね。いろんな子たちはそれぞれの地域で、そういうのにも接してそして家庭内言語と、それぞれの先の学校文化とその言語といろんなものを身に着けて本当に多様性に富むんじゃないかなというふうに、移動していく子どもたち、国内であってもそういうふうなことが起きているなというふうに思います。

〈7. 「わたし」が変われば、社会が変わる〉

米勢：皆さんおそろいですか？ じゃ午後の部を再開したいと思います。ここまで様々な場面での「やさしい日本語」を見てきましたが、最後に「やさしい日本語」に関わる活動事例を紹介したいと思います。報告してくださる土井さんは、愛知県の「やさしい日本語」の手引きの作成など、これまでに様々な事業を通して「やさしい日本語」に関わってこられました。それでは、土井さんよろしくお願ひします。

土井：はい、それでは「やさしい日本語」の取り組み事例をご紹介します。先ほどまでのコントなどで、どういったところで日本語が難しいのかというのをいくつかご紹介がありましたが、それを具体的にやさしくしていこうというのを取り組まれているものをいくつかご紹介をさせて頂きます。これから映しますのは皆さんの本日のお手元のプログラムのですね、12ページにURLなどが載っておりますので、もし興味のある方はまたアクセスして頂いて、ここでは前のスライドの方でご覧いただけたらと思います。「わたし」が変われば社会が変わることで、外国人の方に日本語を学んで頂くのと同時に、私たち日本人側も「やさしい日本語」を使ってみようということで、進めてまいります。

まず、事例の一つ目は、観光案内での「やさしい日本語」です。皆さんご存知のとおり今日本政府は、観光客にたくさん日本に来ていただくような取り組みをしています。観光客に「やさしい日本語」なんて通じるの？と、私も最初はとても懐疑的でした。少しデータでご紹介します。これは昨年ですけれど、訪日外国人、日本に観光で来る外国人が2千万人を超ました。その多く、8割くらいがですね、アジアからの観光客だそうです。じゃあこのアジアの方々って日本語ってどうなんだろうかと、別のデータで見てみると、これは海外の教育機関で日本語を勉強されている方の多い国を表しています。東アジア、東南アジア、南アジアと、アジアには、



多くの日本語教育機関があつて勉強されている方も多いということがわかります。一つ一つの国で見てみると、中国やインドネシア、韓国、そして台湾、タイなどの方が多く観光に来られています。こういった点に注目をして観光客の中にも自分の国で少なからず日本語を勉強していた方がいるんじやないかと、そしてこれは教育機関で勉強をしている、いわゆる中学校・高校とかで勉強している方ですから、プライベート、例えば日本人の友達とインターネットで勉強しているとかSNSを使って学んでいるという人なんかを加えると、おそらく数百万人数千万人という数になるんではないかと。では、観光客として日本に来る中にも、例えば5人10人のグループがいれば、1人2人でも日本語ができる人がいるんじやないの？というところから発想を得てやっているのが、福岡県の柳川市です。その取り組みをご紹介します。ビデオをご覧ください。

（船頭の歌声）水の都かよ～、柳のまち～。

ナレーター：福岡県を代表する観光の町、水郷柳川、柳川市を訪れる外国人観光客のうち、台湾の方が半数以上占めているという実績があります。

現地の観光関係者1：外国のお客様も勉強して来られているんだなというのあります。

ナレーター：やさしい日本語ツーリズムは、日本語を話したい海外からのお客様のために、日本語の初心者でもわかりやすい日本語で会話をし、おもてなしをするプロジェクトです。日本語で話したいお客様は白いバッヂ、おもてなしをする側は水色のバッヂを付け、一目で話しかけられる仕組みです。

現地の観光関係者2：英語をしゃべらんといかんとか、中国語をしゃべらんといかんとか、そういうことは苦手よ、とってもじやないっしょ、そういう話はできませんよと。日本語やつたら「やさしい日本語」やつたらできるかもしれない、そういうような人もたくさんいらっしゃると思います。

ナレーター：「やさしい日本語」を実践するリーダーを要請する講座が、11月21日から3回に分けて行われました。まずは、やさしい日本語を話すためのいくつかのポイントを学び、実例を交えての講座となりました。

講座受講者：川下りは昔の城の周りを船に乗っていくものです。

ナレーター：終了後受講した人へ修了書を授与。

講座受講者：ありがとうございます。

ナレーター：12月8日、台湾から日本語を勉強しているお客様を招待。

台湾観光客と観光関係者（食事）：頂きます。

ナレーター：まずは、柳川名物、うなぎのせいろ蒸しでおもてなし。

台湾観光客：おいしか～。

ナレーター：川下りの船頭さんは、もちろん「やさしい日本語」講座を受講しています。

船頭：有明海で取れたのりの倉庫。のりの倉庫がこの右側になります。

ナレーター：「御花」では、日本の文化と歴史にふれることができました。

現地の観光関係者3：この投げたり、キャッチボールをしたりして遊んだり、蹴鞠と言つて蹴って下に落とさない・・・



ナレーター：難しい言葉も簡単な言葉に言い換えればより理解が深まります。

ナレーター：北原白秋の生家では、みんなで歌うシーンも。（観光客が歌っている）

現地の観光関係者 4：わかる、わからないっていうのを、やっぱり自分が言った後に尋ねることが一番だなと、で、わかっていないから、わかるようにもう一度、こう自分で身振りとか手振りとか入れてみたいなって思いましたね。

観光客：みんなもう親切で、やさしい言葉を話して本当に良かったと思います。

現地の観光推進者：日本語はそんなにわかっていない方もいらっしゃるので、その方にもわかるように説明してくれて本当に助かります。

現地の観光関係者 5：どれだけやさしく簡単に伝えられるかってのをやっていきたいと思っております。

柳川市長：柳川方式がですね、市内だけではなく築後地区、また福岡県内、九州もっと大きく出ればですね日本列島全体がですね、そういうことで取り組んで頂ければ、政府が求めている4千万人ですか、外国のお客様がたくさんおいでになるというふうに思っております。

ナレーター：海外からのお客様と英語ではなく、「やさしい日本語」で会話する。このシンプルで誰にでもできるおもてなしを、福岡県へ、九州へ、そして日本全体に発信していきます。

土井：はい、というのが福岡県柳川市の取り組みでした。例えば私が韓国語を半年くらい勉強して、これ実際どれくらい通じるんだろうと思って韓国に行ってみて、ちょっと韓国語を試してみたいなと思う、それと同じですよね。海外で日本語を勉強した人が日本に来て、ちょっと日本語使ってみたいなと思ったら、英語でワ～としゃべられるよりかは、自分が覚えた日本語が通じるとうれしいなと思う、そんな機会を提供しようという取り組みであります。

続きまして、職場での「やさしい日本語」ということで、これは静岡県の国際交流協会さんが、外国人、特に技能実習生を雇用されている企業さんに講師の方を派遣して、日本人従業員向けに「やさしい日本語」を教える。そうすると日本の従業員の方と技能実習生の間で「やさしい日本語」でコミュニケーションが取れる、そんなことを促している取り組みです。



そしてコントでもありましたけど、役所の言葉が難しいという中で、例えば東海地域では静岡県の焼津市さんでは職員用に通訳翻訳も含めて「やさしい日本語」を使うマニュアル、特に職場にいる通訳の方も専門用語というのはあまり勉強されていないケースもありますので、通訳さんに対しても「やさしい日本語」で説明するってことも大事だよねというようなことをされています。同じ愛知県の中でも豊橋市さんも職員用のマニュアルを作って職員の方々が来庁される外国人の方に「やさしい日本語」を使おうという姿勢を持って取り組まれています。それ以外にでもですね、例えば愛知県さんも先ほどご紹介がありましたけれど「やさしい日本語」を一般の市民の方にも使って頂こうというようなマニュアルを作っております。



そして「やさしい日本語」が生まれたきっかけになった災害の中でも変わって来ました。数年前からNHKさんでは、緊急速報、ニュース速報なんかでもひらがなで、外国人にも子どもにもわかるようにということで「つなみ にげて」というふうに短く、わかりやすく伝えるような取り組みをされています。

はい、こういったものは、青森県の弘前大学の方ですね「やさしい日本語」を使っている地域を地図にしてまとめて自治体の名前なんかをあげていらっしゃいます。東海地域

中部地方	・越前市役所	・浜松NPOネットワークセンター	・日進市役所
・新潟県	・黒部市	・菊川市役所	・日本赤十字社愛知県支部
・新潟県庁	・山梨県	・浜松市役所	・名古屋港防災センター
・新潟県国際交流協会	・山梨県庁	・焼津市役所	・名古屋国際センター
・糸魚川市役所	・甲府市役所	・沼津市役所	・刈谷市役所
・小千谷市役所	・静岡県	・静岡県国際交流協会	・岡崎市役所
・新潟市役所	・長野県	・浜松国際交流協会	・幸田町役場
・柏崎市役所	・長野県庁	・愛知県	・西尾市役所
・新潟市役所	・長野市役所	・安城市国際交流協会	・岩倉市役所
・長岡市役所	・諏訪市役所	・小牧市役所	・豊山町役場
・富山県	・松本市役所	・飯田市役所	・高浜市役所
・とやま国際センター	・岐阜県	・にほんご教育の「八の金」	・常滑市役所
・富山県庁	・岐阜県庁	・中部管区行政評価局	・豊橋市役所
・氷見市役所	・愛知県	・愛知県庁	・安城市役所
・FM TOYAMA	・美濃加茂市役所	・大府市役所	・石川県
・南砺市民病院	・郡上市役所	・瀬戸市役所	・石川県庁
・富山行政評価事務所	・岐阜市役所	・豊明市役所	・加賀市医療センター
・福井県	・静岡県	・豊田市役所	・石川県日本語・日本文化研修センター - IFIEの日本語教室
・福井市役所	・静岡県庁	・名古屋市役所	

なんかでも愛知県、岐阜県、静岡県いろんな所で使われております。是非皆さんの自治体でもこういった「やさしい日本語」の取り組みをですね、市民の側からも応援して頂いて、ここにたくさんの町の名前が載る

ようにして頂きたいなと思っております。自分の町があるかなと見たい方は今日の資料の所にURLを載せておりますので是非一度アクセスをしてみてください。では私からの事例紹介は以上になります。

米勢：はい、土井さんありがとうございました。続いて、このシンポジウムの共主催でもある、名古屋国際センターでも「やさしい日本語」についてはいくつか取り組んでいらっしゃるので報告して頂きます。よろしくお願いします。



加藤：よろしくお願いします。名古屋国際センターの加藤と申します。この場をお借りして名古屋国際センターでも取り組んでいる「やさしい日本語」について少しご紹介をさせて頂きます。名古屋国際センターでは外国人の方への情報提供と相談に7カ国語の多言語対応をしておりますが、「やさしい日本語」も非常に重要だと考えております。全ての言語と同じように「やさしい日本語」のホームページを作るところまではいっておりませんが、災害時の情報などについて、例えば台風が近づいている地域、ある学区など

で避難勧告とか避難準備情報が出た場合に、多言語と併せて「やさしい日本語」も国際センターのホームページの方で緊急情報としてアップするようにしております。

それから、国際センターはいろいろな活動にボランティアの方に協力していただくボランティア制度をもっているんですが、なかでも「やさしい日本語」ボランティア、5～6人の方々が登録してくださっていますが、定期的に集まって勉強会を開催し、実際に行政情報や外国人の方にとって重要と思うものを書き換え、それを成果物としてパンフレットを作成し、ホームページでも公表しています。ここに載せているのは、3部作の防災情報の「やさしい日本語」版で、国際センターのWEBでも成果物を公開しています。日本語教室等で活用していただけますのでプリントアウトしてご利用ください。その他には、熱中症対策や、119番、110番などの緊急電話のかけかた、最近では小学校、中学校への入学や編入する際に準備することなどを紹介したマニュアルを作っています。

そしてもう一つ、「N I Cやさしい日本語防災カルタ」というものもボランティアの方々が作りました。地域の防災イベントや多文化共生イベントで実際に使ってお客様に体験してもらっています。66の防災用語とイラストが描かれています。難しい日本語の見出しカードとそれをやさしい日本語に言い換えたカード、それから両方書いてあるカードで構成されています。日本語教室等の団体を対象にこれから貸し出しを始めたいと思っております。見本を、あちらの列の一番前に置いてあります。チラシも置いてありますので興味がありましたら、私どもの方にご連絡して頂ければ、貸し出しをいたします。

それから今、土井さんからも紹介された行政の取り組みの一つとして名古屋市の職員向



けに「やさしい日本語」の研修も行っています。これは毎年行っているのですが、100名以上の職員の方、さまざまな部署の方たちが受講しています。外国人のお客さんがいらっしゃった時の言い換えや書類・ホームページで情報を伝える際の書き換え方法などを学んで頂き、それを職場に戻って同僚の方にも伝え拡げてもらうことを趣旨として実施しています。米勢さんや岩田先生も講師でお招きしました。

国際センターは、こうした取り組みをまだ始めたばかりなのですが、地域でも、例えば町内会の方々が「やさしい日本語」を知って、日常の中で使って頂けるような普及活動をしていただきたいと思っています。お声をかけて頂ければ例えば地域の皆さんと一緒に街歩きをしながら、この看板は「やさしい日本語」にしたらいいんじゃないかな、などと見つけながら、そんなワークショップも来年度から始めたいと考えていますので、もしそういう機会がありましたら、是非お声をかけてください。是非皆さんと一緒に「やさしい日本語」を広めていきたいと思います。ありがとうございます。

米勢：加藤さんありがとうございました。

いろんな事例を報告して頂いた中の、観光の「やさしい日本語」というのはわりと新しい視点ではないかと思うんですけども、私たちはどちらかというと、地域に住んでいる定住している外国人の人たちに日本語を習得してもらうための一つの手段として「やさしい日本語」、そしてその人たちが生活していく上で接触する人たちに「やさしい日本語」を使ってもらえるようにしていくっていうようなことを考えてきたんですね。ちょっと新しい視点として観光、おもてなし、そしてオリンピックを見据えてということもあって、アップデートな話題ではあるかなと思うんですが、岩田先生はどのようにお考えですか？

岩田：柳川市のうまくいっている事例が出てきましたが、半分以上は台湾の観光客の方だというような現状もありまして、日本語対応でうまくいっているようです。全ての町でうまくいくかはわからないんですけど、あまりにも今英語に振り切っているので、「英語ばかりじゃないよ」という我々からの働きかけは大事です。現場を見ている方は本当に良くご存知だと思うんですが、英語を使わぬ方が世界にはたくさんいらっしゃいます。こういうことが外国人と接触経験の無い方はやっぱりわからないんです。とにかく英語をしゃべれば、全部伝わると思っている方は結構いらっしゃるので、そのへんの温度差を埋めるにはツーリズム研究会がなさっているような活動はとても重要です。

米勢：例えば古い友達とかそういう人に会って「何してるの」とか聞かれて、「外国人に日本語を教えてるんです」とか言うと、「あ英語ができるんだね」と必ず言われるんですね。「英語使わないんだけどね、だって英語がわからない人の方が多いから」っていうのがすつとは伝わらないことがあって、そんなのが変わっていってね、多文化複言語っていうか、そういった考え方まではいかないにしても「やさしい日本語」がある程度共通するという認識になると、わりとみんなが興味を持ってくれるかなというような気がします。

それでは最後になりました。今日の午後の部の総括としてレクチャーを頂ければと思います。岩田さん、よろしくお願ひします。

〈総括コメントに変えて〉

講師 岩田一成



1. 台湾でのエピソード

みなさま、本日はコントを見ていいろいろ刺激を受けたのではないでしょうか。少ない時間ではありますが、「やさしい日本語」に関わるお話を少しあせていただきます。

私が台湾に旅行に行ったときのホテルでのエピソードです。ホテルは日本語スタッフが充実しており、日本語でコミュニケーションが取れました。朝食の時、日本人男性がバイキングのメニューについて、何かスタッフに話していました。

「すんません、きゅうりのキュウちゃんないの？」
実は昨日の朝食できゅうりのキュウちゃんが出ていたことを知っていた私は、何の話かすぐにわかりました。ある世代では非常に人気があるお漬物ですね。いきなり固有名詞を言われた台湾人スタッフはきょとんとしていました。そこへ男性はまた言います。

「キュウちゃん」
固有名詞ですから、日本語が流ちようなスタッフも対応できません。男性は「キュウちゃん」を数回繰り返した後、「コリコリ」と言いました。こういったオノマトペは、外国人にはとても難しいのですが、その辺の感覚は一般の人にはわからないでしょうね。スタッフは完全に困った顔をしています。

そこへ現れた、男性の妻と思しき女性。自信満々で、ペラペラペラ～と英語を話しだしたのです。とてもきれいな英語でした。ところが、繰り返しますが、日本語ができるスタッフですから、英語は得意ではないようです。全く理解できないという感じで、もはやキュウちゃんどころではありません。このミスコミュニケーションから以下のようないい込みの存在が確認できるのではないでしょうか。

考察

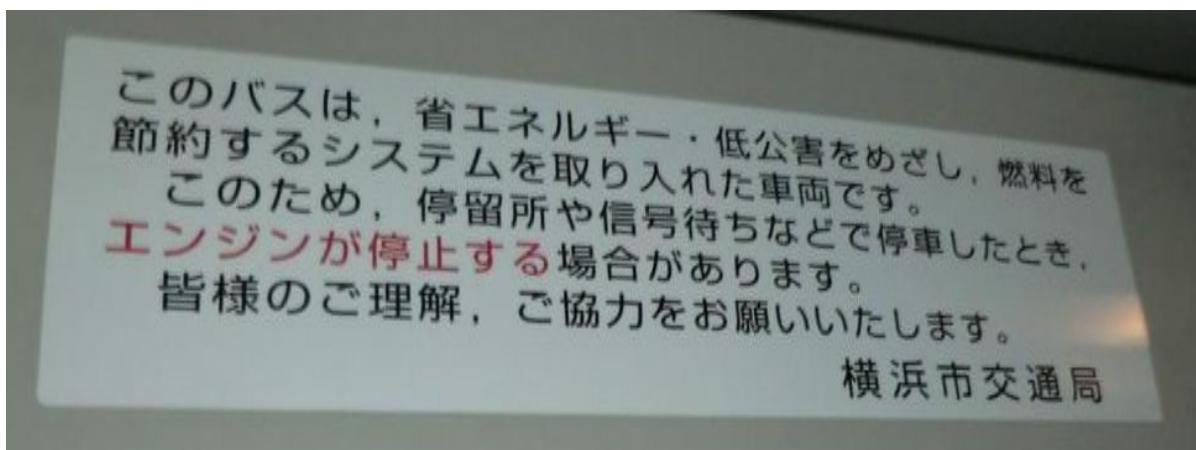
1. 我々は外国人には英語が通じると思っている。
2. 我々は日本語の使い方がへたくそである。

今の場合、答えは？

おそらくこの場合、まずは日本語の普通名詞を使ってみるべきでしょう。「きゅうり」「漬物」「昨日の朝、食べました」なんてことを丁寧に話せば、伝わったかもしれません。

2. やさしい日本語を阻むもの

テーマを変えましょう。以下の写真をご覧ください。



ちょっと回りくどい物言いをしていると思いませんか？ 例えば上の写真、「生ビールが 380円のとき、おつまみを一つ注文してください」と書いてもいいはずです。下の写真は、「バスはときどきエンジンが止まります」と書けばもっとすっきりします。やさしい日本語です。

カプランという言語学者は、アジア人の作文を渦巻モデルで表しました。ストレートではないということです。我々はどこか、心の中で複雑な物言いを好んでいるのではないかでしょうか。ひどい悪文の例は、拙著『読み手に伝わる公用文：〈やさしい日本語〉の視点から』にたくさん例があがっています。また、尾上圭介氏は『大阪ことば学』で動物園の檻について一般には、以下のような文言が書いてあると指摘しています。

「この動物は季節により獰猛になることがありますので、手すりから身を乗り出して手や顔をオリに近づけますと…」

ところが、関西の王子動物園には一言しか書いていないというのです。「かみます」です。会場のみなさまは笑っておられますぐ、オーストラリアではこういうサインが普通に使われています。直訳すれば「注意 これらの動物はかみます」となります。



本田弘之ほか『街の公共サインを点検する』より

タバコの例も見てみましょう。日本のタバコは非常にまわりくどいメッセージがついています。一方、イギリスのタバコはとてもシンプルです。



本田弘之ほか『街の公共サインを点検する』より

このように私たちはどうもストレートな言い方に抵抗があるようです。やさしい日本語の書き換え実験でも、日本語をやさしく書き換えると、書き換えた人はこんな日本語でいいのかという葛藤を感じることがわかっています。わかりやすい文章を考える上で、こういった私たちの感覚が実は、邪魔をしているのかもしれませんね。「私たちはストレートな物言いに抵抗を感じる」ということ、みなさん、心の隅っこに覚えておいていただけたら幸いです。そして、その壁を超えるためには何をすればいいのか、我々は考えていかなければなりません。

ありがとうございました。

米勢：岩田先生、どうもありがとうございました。それでは、本日の出演者の皆さん、前にお並びください。

〈午後の部出演者紹介〉

米勢：午後の部を担当くださった方を順番にご紹介します。（BGM）

1番、ナレーターと「災害情報のやさしい日本語ワークショップ」を担当した「国際子ども学校」の佐原さんです。

2番「上から目線では」で役所の職員役を演じたのは名古屋国際センターの川口さんです。お隣は役所の窓口に来た外国人役を演じた「まなびや@KYUBAN」のエリカさんです。そしてエリカさんは、日本語教室の学習者も担当してくれました。

そして3番目です。「どうすればいいの」で団地の自治会長を担当したのは「豊田市立西保見小学校」で放課後学習支援をしている朝熊さん、そして副会長役は「多文化共生リソースセンター」の土井さんです。そして、団地の外国人役はフリーランス通訳のリカルドさんです。土井さんは最後の「私が変われば社会が変わる」の事例紹介もしてくださいましたし、リカルドさんは日本語教室の学習者さんの役も担当してくださいました。

さて、日本語教室の3つの場面で「説明のことば」「敬語」「方言」のボランティアをそれぞれ担当したのは、「東海日本語ネットワーク」の浜原さん、松本さん、鈴木さん、酒井さんです。そして、学習者役の「名古屋ろう国際センター」のキムさんです。

演出・進行など裏方を務めてくださった皆さんも紹介します。「TABO ネット」の貝谷さん、「可児市防災の会」の臼井さんです。そして、そのお隣は、川口さんいますか？後ろでカメラで撮っているのが「まなびや@KYUBAN」の川口さんで「TABO ネット」の所属でもありますね。

そして「こころの声」と音響を務めてくださったお二人、若いお二人が来てくださいました、更屋さんと阿部さんのお二人です。

2階席から照明を担当してくださっているのがNIC 日本語の会の山田さんとNICの加藤さんです。ありがとうございます。

そして岩田さんも前に、真ん中に移動して頂けますか？ 岩田先生には、午後の部の最初から最後まで出でっぱりでご助言と総括をいただきました。

会場の皆様、どうぞ岩田先生と出演者の皆様に、盛大な拍手をお願いします。（拍手）

また会場の皆さまにも議論に参加して頂き御礼を申し上げます。ありがとうございます。

これで午後の部を終了いたします。



当日配布資料

日本語ボランティアシンポジウム 2017

午前の部：交流会

知り合おう！伝え合おう！私たちの活動

午後の部：「やさしい日本語」を考えよう

コントでつづる「やさしい日本語」



わからぬ日本語、つかってない？

—外国人に伝わる「やさしい日本語」を考えよう—



開催日時：平成29年12月2日（土） 10：30～16：30

開催場所：名古屋国際センター 別棟ホール

対象：日本語学習支援活動に携わっている人

関心のある人（200名）

参加費：一般500円、TNN会員・NIC賛助会員300円

主催：東海日本語ネットワーク（TNN）

（公財）名古屋国際センター（NIC）

後援：愛知県／愛知県教育委員会／名古屋市教育委員会

国立国語研究所

①本事業は、名古屋市の指定管理事業です。

公益財団法人愛知県国際交流協会国際交流推進事業費補助金補助事業

当日配布資料

日本語ボランティアシンポジウム 2017

主催者 あいさつ

外国人住民数が増加するにつれ、外国人と対話をする機会が増えてきています。今やコンビニ店員の二人に一人は外国人です。飲食店でもよく見かけます。接客される側になって改めて日本語の伝え方、伝わり方を考えるようになりました。語彙力だけでなく、表情や発音、仕草もコミュニケーションの役割を占めています。

日本語の伝え方といえば、最近「やさしい日本語」という言葉をよく耳にします。簡単でわかり易いのが「やさしい日本語」なのか、難しくても伝わるのが「やさしい日本語」なのか。私たち日本語ボランティアが日ごろ使っている言葉は、はたして「やさしい日本語」なのか。また、そうでなければいけないものなのか。様々な場面で様々な考え方があると思いますが、本日のシンポジウムではこの「やさしい日本語」をテーマに、一人でも多くの意見を出し合い、活動の輪を広めていただけたらと思っております。

最後になりましたが本年度もこうして日本語ボランティアシンポジウムを開催できることを心から嬉しく思います。開催にあたり、ご協力くださいました多くの方に心より感謝申し上げます。

東海日本語ネットワーク 代表 酒井美賀

今年も「日本語ボランティアシンポジウム 2017」をTNNとともに開催する運びとなりました。毎年のことですが、なによりもTNNの皆様の熱意とパワーに心からの敬意を表しつつ、市民の皆様へのメッセージを発信するこの貴重なシンポジウムの開催にご尽力いただきました全ての皆さまに感謝と御礼を申し上げる次第です。

名古屋市の外国人人口については、平成29年8月が76,003人、9月が76,126人と増加し続け、総人口に占める割合が3%を超えており、この1か月間では毎日4人の外国人が名古屋市に転入されてきていることになります。この傾向一定住外国人の増加、多国籍化は少子高齢化に伴う労働力需要とともに今後もしばらく続くことが予想されますが、その中で変わらず決定的に重要なことは、暮らす・働くなど全ての生活に関わってくる「ことばの壁」をいかに崩していくかにあると思います。

さて、このような状況の中、母語を共有しない外国人とのコミュニケーションの課題を解決するツールとして、最近「やさしい日本語」の必要性が叫ばれています。言語の習得において世界最難関と言われている日本語を習得することは外国人にとって容易なことではないかもしれません。そこで日本人と外国人とが対等の立場で“お互いさま”的の気持で「やさしい日本語」を学び合い、双方の「情報のバリアフリー化」に務めていくことは、実は“多文化共生”を進める上でも大変重要な考え方であると思います。そして「やさしい日本語」は地域コミュニティにおける日本人と外国人の関係づくりにとっても有益なツールとなり、このツールを学び合う場こそが、皆さまの活動場所である地域日本語教室にはかなりません。

今年度のシンポジウムでは、日常の教室活動などをベースに「やさしい日本語」を実践者の皆さまの視点で振り返るコントを用意いたしました。午前の交流会を含め本日の「出会い」と「気づき」を、皆さまの明日からの活動に活用していただければ幸いです。

公益財団法人名古屋国際センター（N I C） 理事長 矢野秀則

当日配布資料

日本語ボランティアシンポジウム 2017

開催趣旨

名古屋市に住む外国人住民数は、増加の一途をたどり、雇用形態など彼らを取り巻く生活環境は、多様化しています。また、長期的に日本で暮らすことを希望する外国人住民も、増えています。今後、外国人住民が安全・安心な生活を送るために、日本語教室が果たす役割の重要性は増すでしょう。本シンポジウムの目的は、ダイナミックな国際化の流れの入口ともいえる地域日本語教室の活動を改めて見つめることにあります。

最近、「やさしい日本語」という言葉をよく耳にするようになりました。いかなる変化の時代においても、日本語教室にとっての“基本”は「やさしい日本語」を使用すること、と考えます。はたして、日本語ボランティアは「やさしい日本語」を使っているでしょうか。今回のシンポジウムでは、“基本”に立ち返り、学習者にとっての「やさしい日本語」とはどんなものなのか、を参加者の皆さんとともに考えたいと思います。

プログラム

受付開始	別棟ホール内の受付にて参加費をお支払ください。	10:00
オープニング		10:30～10:50
主催者挨拶:	酒井 美賀(東海日本語ネットワーク代表) 矢野 秀則(公益財団法人名古屋国際センター理事長)	
総合司会:	伊藤 典子(東海日本語ネットワーク)	
交流会:知り合おう！伝え合おう！私たちの活動		10:50～12:30
	ホール内に地域日本語教室紹介ブースを設けます。ゆっくりとご交流ください。	
休憩、会場設営		12:30～13:20
「やさしい日本語」を考えよう:コントでつづる「やさしい日本語」		13:20～15:30
	役所や地域コミュニティ、そして日本語教室で繰り広げられる「あるある」コントをもとに「やさしい日本語」について考えます。素人劇団のコントをお楽しみください！また、防災や観光で広がりを見せている「やさしい日本語」についても紹介します(途中に休憩時間があります)。	
司会:	米勢 治子(東海日本語ネットワーク)	
コント演出:	椿 佳代	
ナレーション:	佐原 恵津子	
コメントーター:	岩田 一成(聖心女子大学 文学部 日本語日本文学科 准教授)	
総括		15:30～15:50
講師:	岩田 一成	
閉会挨拶	浜原 弘也(東海日本語ネットワークシンポジウム実行委員長)	15:50～15:55
アンケート記入		15:55～16:00
交流タイムです。会場片付けにご協力ください。		16:00～16:30

当日配布資料

日本語ボランティアシンポジウム 2017

当日配布資料

日本語ボランティアシンポジウム 2017

午前の部：交流会

知り合おう！伝え合おう！ 私たちの活動

ボランティア日本語教室 紹介ブース

東海地域で活動している日本語教室、ボランティアグループが、それぞれの活動の様子をパネルなどで紹介します。会場図、参加団体は次頁をご参照ください。

10：50～11：00 交流会説明
11：00～11：20 A グループ（赤色プレートの団体：①④⑦⑩⑬⑯⑯⑯⑯）
11：20～11：40 B グループ（青色プレートの団体：②⑤⑧⑪⑭⑯⑯⑯）
11：40～12：00 C グループ（黄色プレートの団体：③⑥⑨⑫⑮⑯⑯⑯）
12：00～12：30 自由に交流

「東海日本語ネットワーク（TNN）—日本語なんでも相談—」ブース

TNNは東海4県（愛知・三重・岐阜・静岡）で活動している日本語教室、日本語ボランティアのネットワーキングを目的として、1994年6月に活動を開始しました。

毎月第2土曜日の午後に、名古屋国際センター（N I C）の共催を得て、ボランティア研修会などを開き、毎年12月には「日本語ボランティアシンポジウム」を開催しています。

本日は、日本語学習支援のボランティア活動や各地域の日本語教室情報など、相談や質問などにお答えします。ぜひ、ブースにお声をかけてください。TNNへの入会も大歓迎です。

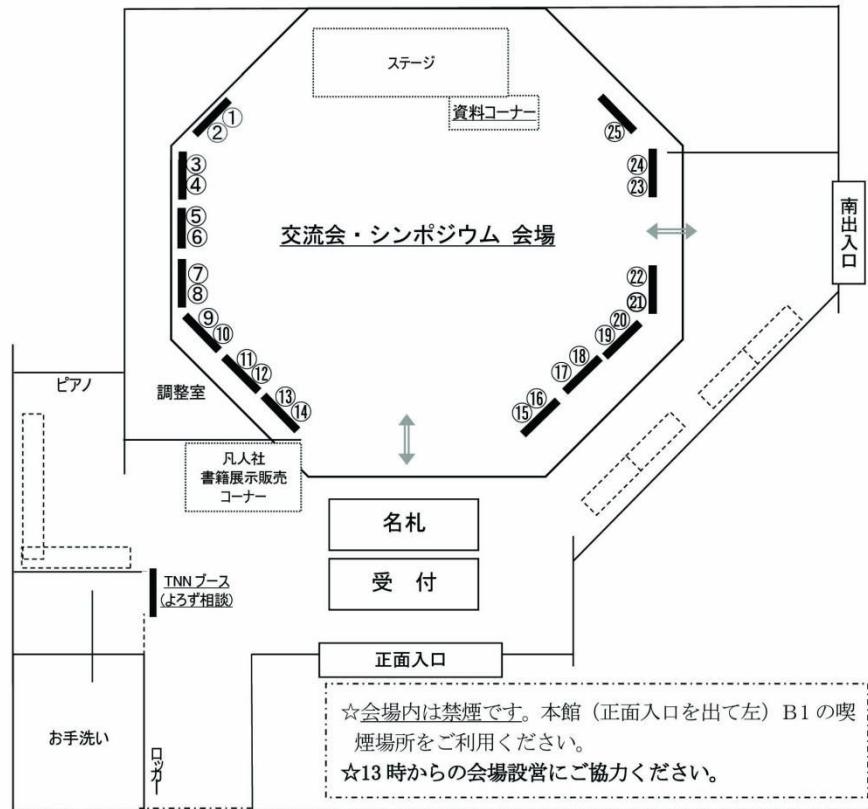
日本語教育関連図書・書籍展示販売コーナー

「凡人社」による日本語・日本語教育・ボランティア活動関係の書籍を展示・販売します。また、「スリーエーネットワーク」の書籍紹介もあります。

当日配布資料

日本語ボランティアシンポジウム 2017

会場案内図



①愛知県立大学日本語教員課程「日本語教育実習」 ②(公財)愛知県国際交流協会日本語教室リソースルーム ③あいち国際プラザにほん語教室 ④あいち日本語の会 ⑤ALOE 日本語教室「あかさたな」 ⑥大口日本語教室 Cere ja カフェ ⑦春日井国際交流会かすがいふれあい教室 ⑧可児市国際交流協会日本語教室高校進学支援さつき教室かがやき教室 ⑨刈谷市国際交流協会日本語支援グループ ⑩九番団地日本語教室 AULA DO KYUBA ⑪幸田町国際交流協会日本語サロン ⑫ことばの会 ⑬NPO 法人シェイクハンド日本語教室 ⑭東海市日本語教室 ⑮豊川国際交流協会日本語教室 ⑯とよた日本語学習支援システム ⑰豊橋市国際交流協会 ⑱長久手市国際交流協会「ウエルカムにほんご教室」「にほんごではなそう！ながくてクラス」 ⑲(公財)名古屋国際センター NIC 日本語の会 ⑳(公財)名古屋 YWCA 外国人支援事業「ガリ勉クラブ」「バンビーナ」 ㉑日本語教室ふらっと ㉒東別院日本語教室 ㉓Viva おかざき!!暮らしに役立つ日本語教室 ㉔扶桑町多文化共生センター日本語教室“おしゃべり Café” ㉕ほしがおか日本語教室

当日配布資料

日本語ボランティアシンポジウム 2017

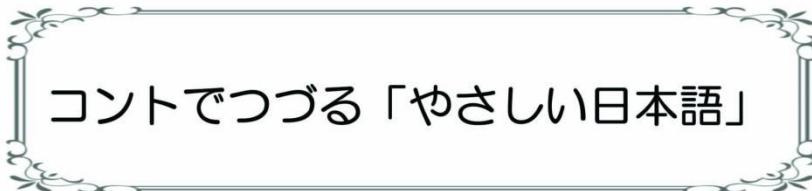
当日配布資料

日本語ボランティアシンポジウム 2017

当日配布資料

日本語ボランティアシンポジウム 2017

午後の部：「やさしい日本語」を考えよう



司会 : 米勢 治子 (東海日本語ネットワーク)

コメンテーター : 岩田 一成 (聖心女子大学)

コメンテーター プロフィール

聖心女子大学文学部日本語日本文学科准教授。

元青年海外協力隊隊員（中国内モンゴル自治区派遣）、国際交流基金日本語国際センター、広島市立大学を経て、現職。専門分野は数量詞や指示詞など（談話レベルの日本語文法）。大学院生のときからボランティア日本語教室に通っています。関西人です。でっかい抽象論よりも、細かくても具体的な話が好きです。

著書（書籍）『日本語教育学の歩き方』『読み手に伝わる公用文: 〈やさしい日本語〉の視点から』『街の公共サインを点検する』など
著書（教科書）『日本語これだけ！』『にほんご宝箱 日本で生活する外国人のためのいろいろな書類の書き方』など

当日配布資料

日本語ボランティアシンポジウム 2017

コント演出・進行： 椿 佳代 (災害ボランティアコーディネーターなごや)

演出助手： 貝谷 京子 (多文化防災ネットワーク愛知・名古屋)

川口 祐有子 (多文化防災ネットワーク愛知・名古屋)

臼井 尹保 (可児市防災の会)

山田 美砂子 (NIC 日本語の会)

加藤 理絵 (名古屋国際センター)

ナレーション： 佐原 恵津子 (国際子ども学校)

1. どう伝える？ 災害情報の「やさしい日本語」

ファシリテーター： 佐原 恵津子

☆「やさしい日本語」に書き換えるときに考えたこと

・何を伝えたいのか。

…特に重要度の高い情報は何か／聞いた人（読んだ人）にどうして欲しいのか

・どうしたら伝わるのか。

…簡単な言葉に言い換える／一文を短くする／あいまいな表現は避ける／具体的に

☆実際に「やさしい日本語」にしてみましょう。

・避難所

・津波の警報が出たら、海岸の近くにいる方はただちに高いところへ避難してください。

・ご自宅にご遺体を安置されている方は、～～課にご連絡下さい。

当日配布資料

日本語ボランティアシンポジウム 2017

2. 上から目線では？…役所の窓口で

行政職員： 川口 徹 (名古屋国際センター)

外国人住民： 玉城 エリカ (まなびや@Kyuban)

3. どうしたらいいの？…地域コミュニティで

自治会長： 朝熊 ノリ子 (豊田市立西保見小学校放課後学習支援パラソル)

副会長： 土井 佳彦 (多文化共生リソースセンター東海)

外国人住民： コスタ ジョン リカルド (フリーランス通訳)

報告： 川口 祐有子

当日配布資料

日本語ボランティアシンポジウム 2017

4. 説明のことばが難しい！…日本語教室で（1）

日本語ボランティア： 浜原 弘也 (東海日本語ネットワーク)

学習者： キム ナムウン (特定非営利活動法人名古屋ろう国際センター)

玉城 エリカ

コスタ ジョン リカルド

5. 敬語はやめて！…日本語教室で（2）

日本語ボランティア： 松本 一子 (東海日本語ネットワーク)

学習者： キム ナムウン

玉城 エリカ

コスタ ジョン リカルド

当日配布資料

日本語ボランティアシンポジウム 2017

①

① 6. 方言ってどうなの？…日本語教室で（3）

日本語ボランティア： 酒井 美賀 (東海日本語ネットワーク)
鈴木 勝代 (ことばの会)
学習者： キム ナムウン
玉城 エリカ
コスター ジョン リカルド

② 7. 「わたし」が変われば、社会が変わる

報告： 土井 佳彦

「やさしい日本語」は、1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに考案され、その後の災害で被災外国人に向け情報提供として使われるようになりました。

その効果や意義が認められ、今では「災害時」に限らず日頃から、また「外国人」に限らず高齢者や子ども、障害者などにもわかりやすいコミュニケーションツールとして広まっています。

では、実際に、「やさしい日本語」がどんな場面で使われているのか、それによって地域社会がどんなふうに変わっているのか、いくつか事例をご紹介します。

事例① 観光案内での「やさしい日本語」

【実践者】やさしい日本語ツーリズム研究会
【参考】<https://yasashii-nihongo-tourism.jp/>

事例② 職場での「やさしい日本語」

【実践者】(公財)静岡県国際交流協会
【参考】<http://www.sir.or.jp/multiculture/japanese/trainee/detail/id=527>

当日配布資料

日本語ボランティアシンポジウム 2017

事例③ 市役所での「やさしい日本語」

【実践者】焼津市、豊橋市

【参考】

(焼津市) http://www.pref.shizuoka.jp/kikaku/ki-140/documents/yaizu_yasashii_nihongo.pdf

(豊橋市) <http://www.city.toyohashi.lg.jp/23542.htm>

この他にも、全国各地でさまざまな取り組みがあります。

下記サイトに事例紹介がまとめてありますので、ぜひ一度ご覧ください。

弘前大学 人文学部 社会言語学研究室

「やさしい日本語」に対する社会的評価

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ8syakaitekihyouka.top.html>

当日配布資料

日本語ボランティアシンポジウム 2017

総括コメントに変えて

聖心女子大学 岩田 一成

『ダーリンは外国人』のトニー・ラズロさんは、日本人に日本語で話しかけても、まず返事してもらえないと言っています。顔が外国人だからだそうですが、急いで道を開きたいときなどは大変困るそうです。この手の報告はたくさんあるのですが、外国人が日本語で話しかけていても、日本人はなかなかスムーズに反応できないようです。一方で、日本人は、外国人がカタコトの日本語を話すと過剰に褒めるということも指摘されています。「こんにちは」と言っただけで日本語を大絶賛されて、逆に不愉快な思いをしている外国人のコメントをときどきみかけます。

これらの例の背後にあるのは「外国人に日本語はできない」という私たちの強烈な思い込みです。特に白人のような明らかな外国人顔の場合、この思い込みが強まるようです。こういった例を見ていると、どうも日本人は外国人との日本語コミュニケーションに慣れなんだなあと感じます。「やさしい日本語」は、こういった私たちの思い込みに立ち向かっていく発想です。

今回はコントの形で「やさしい日本語」にまつわる具体的な場面をたくさん示してくださいました。個々の場面はとても上手に設定されており、準備段階でかなり丁寧な話し合いがもたれたのではないかと思います。コントの中で示された「こういう場面で外国の方が困っているのではないか」という視点は、みなさまにいろいろな気付きをもたらしたはずです。これらの映像が多くの人々に共有されていくことを願ってやみません。

「やさしい日本語」という言葉が本格的に普及したのは、阪神大震災の後です。まだ20年程度ということになります。災害状況と言うのは、コミュニケーションの問題が顕在化するので、我々のコミュニケーションを問い合わせ一つのきっかけになりました。「日本語をわかりやすく話そう」という発想は、社会の言語的多数派が少数派の気持ちを理解しようとする想像力にかかっています。日本語以外の話者がいるという想像力がなければ、全く「やさしい日本語」を話すようにはなれません。ですから、アメリカのような多民族国家では、Plain Englishという発想が1940年代から議論されていますが、日本では1990年代になってしまったのです。

これから益々外国籍住民の方が増えていく中、「やさしい日本語」の重要性は高まる一方でしょう。最新のデータでは、日本語ができなくて困っている子ども（日本語指導が必要な児童生徒）には、約1万人の日本国籍保持者が含まれていることがわかつています。国籍で判断するのではなく、社会にはいろいろな言語話者がいるという想像力が「やさしい日本語」を話すときに重要なのではないでしょうか。最後になりましたが、本日のイベントの企画・運営をしてくださったみなさまに感謝申し上げます。

当日配布資料

日本語ボランティアシンポジウム 2017

当日配布資料

表紙の絵：酒井 美賀

日本語ボランティアシンポジウム 2017
わからない日本語使ってない？～外国人に伝わる「やさしい日本語」を考えよう～
プログラム

2017年12月2日（土）
東海日本語ネットワーク・公益財団法人名古屋国際センター

東海日本語ネットワーク
〒450-8992 名古屋市中村区名駅 1-1-1 JPタワー名古屋 1階
名古屋西郵便局 JPタワー名古屋内分室局留
<http://tnnjp.com/>

公益財団法人名古屋国際センター
〒450-0001 名古屋市中村区那古野一丁目 47番 1号
TEL 052-581-5689 (交流協力課) FAX 052-581-5629
<http://www.nic-nagoya.or.jp/>

日本語ボランティアシンポジウム 2017

「わからない日本語、つかってない？～外国人に伝わる『やさしい日本語』を考えよう～」
アンケート結果

開催日時：2017年12月2日（土）10：30～16：30

開催場所：名古屋国際センター 別棟ホール

参加者数：225名（定員200名；112%、TNN会員及びNIC賛助会員203名・一般22名）

アンケート回収枚数：117枚（52%）

I 本日の催しについて

1. この催しはどこでお知りになりましたか。（複数回答可）

TNNHP	10
TNN会報	20
NICHP	10
NICニュース	2
所属教室	39
Facebook	2
ML	3
ちらし	12
その他	29

AIA	1
とよた日本語学習支援システム	1
長久手日本語教室	1
AIA	2
名古屋YMCA	2
NIC	1
ヒューマンアカデミー	1
YWCAの養成講座	1
無回答	5

大学	5
愛知県立大学	4
AIA	1
TNN会員	1
TNNの講座	1
YWCAの授業	1
YWCA	1
大学の授業	1
刈谷市国際交流センター	1
口コミ	1
ことばの会	1
所属大学の課程で	1
知り合いにきいた	1
先生	1
メール	1
米勢先生	1
チラシ	1
日本語教室の案内	1
日本語ボランティア入門講座	1
記載なし	3

2. 参加動機（抜粋）

「やさしい日本語」について疑問が多かったため
TNNの講師の方に勧められて
外国人の分からなことを知りたかった
教室内でブース当番だった
やさしい日本語の重要性をコント形式で教えてくれるとのことでの興味がわいた
在日外国人の子供向けの日本語ボランティアをしているため
自分が講師としてやさしい日本語を話す機会が増えているため
自分と生徒との関わり方を振り返り学びたい
他地域の活動を知りたかった

テーマに興味があったから
 テレビや新聞で取り上げられており興味があったため
 日本語が十分でない外国人親子と仕事で関わるため
 など。

3. 本日の内容はいかがでしたか。

【全体評価】

大変 よかったです	よかったです	ふつう	あまり よくなかったです	よく なかったです	無回答
54	54	4	1	0	4
47.8%	47.8%	3.5%	0.9%	0.0%	-

95.6%

113

普段学生のみで考えている課題について、多くの人と共有することができた
 見直すべきことがたくさんあることがわかった
 ブース出展もコントもよく勉強になり、参加してよかったです
 参加者が多くてパネルで各教室の紹介が見られてとてもよかったです
 「あるある」なコントを見ることで分かりやすかった
 面白い企画だった
 声が聞こえなくて残念だった
 新鮮さがない

など。

【交流会】

大変 よかったです	よかったです	ふつう	あまり よくなかったです	よく なかったです	無回答/不 参加
30	55	11	1	2	18
30.3%	55.6%	11.1%	1.0%	2.0%	-

85.9%

99

他の日本語教室の活動の様子を知ることができて興味深かった
 日本語教室等多くあることにびっくりした
 いろいろな地域の方の活動について知ることができた
 細かい質問ができた
 20分で一つのブースしか見ることができなかつた
 午後からの参加のため、掲示したものしか見られなかつた
 参加グループが多く、密集していて、会場がうるさく、説明が聞きとりづらい
 主婦の集まりという印象だった

など。

【コント】

大変 よかったです	よかったです	ふつう	あまり よくなかったです	よく なかったです	無回答/不 参加
81	26	4	0	0	6
73.0%	23.4%	3.6%	0.0%	0.0%	-

96.4%

111

教室あるあるのエピソードがたくさんあり、活動を振り返ることができてためになった
身近なコントが面白かった

どれも面白く、考えさせられる内容だった。自らを振り返りとても勉強になった
学習者の顔や様子をよく見て授業を進めることができたと気づかされた

コント仕立ては分かりやすかった

トピックがよかったです

分かりやすく面白かった。今日来ていない人にもぜひ見てもらいたいと思った

内容が易しい日本語と一致していない面があった

方言が極端すぎた

など。

【総括】

大変 よかったです	よかったです	ふつう	あまり よくなかったです	よく なかったです	無回答
61	18	4	0	1	33
72.6%	21.4%	4.8%	0.0%	1.2%	-

94.0%

84

自分でも難しい日本語をさがしてみたい

岩田先生の話はとても分かりやすく楽しかった

日本人の言語感覚をよく突いていた

「簡単な日本語に抵抗がある」という言葉にズキンときた

心の葛藤を生まないやさしい日本語とは何か、考えていきたい

先生の写真のコレクションが面白かった

最後の柳川の事例が興味深かった

など。

II 今後の催しについて (複数回答可)

期待するテーマ

情報提供	40
交流の機会	19
運営方法	21
教授法・教材	40
多文化共生・国際理解	35
子どもへの日本語教育	34
その他	3

外国人を受け入れる企業は日本語教育についてどう考えているか
 悩みを共有し、話会う時間を作る
 日本語教育の在り方・変化

III ご来場の皆様について (複数回答可)

日本語ボラ	73
日本語以外のボラ	3
日本語教育機関教員	7
学校教員・指導員	6
研究者	0
学生	14
日本語教師養成講座の講師	11
行政職員	5
その他	8

会社員	1
養成講座	1
国際交流協会	1
無回答	5

IV その他、ご意見・ご感想 (抜粋)

いろんな意見がきけて良かった

学校では得られない意見や考えをたくさん聞くことができてよかったです

教室紹介は続けてほしい

一方的な講演ではなく、「あるある」エピソードを盛り込んだコントは楽しかった

やさしい日本語を考える契機となった

よく考えられた内容でよかったです

面白いシンポジウムだった

など。

【注】パーセンテージは小数第2位を四捨五入（このため各回答の計が100%にならない場合あり）。

2017年12月2日（土）

日本語ボランティアシンポジウム 2017

「わからない日本語、つかってない？～外国人に伝わる『やさしい日本語』を考えよう～」
～参加者アンケート～

本日はご参加いただき、誠にありがとうございました。今後の事業の参考にさせていただきますので、アンケートへのご協力をお願いいたします。

I 本日の催しについて

1. この催しはどこでお知りになりましたか（□に✓を入れてください）。

東海日本語ネットワーク（TNN）のホームページ TNN会報 Facebook（発信元： ）
 名古屋国際センター（NIC）のホームページ NICニュース 所属教室（教室名： ）
 メーリングリスト（発信元： ） ちらし（ご覧になった場所： ）
 その他（具体的にお書きください： ）

2. 参加の動機をお聞かせください。

（ ）

3. 本日の内容はいかがでしたか（□に✓を入れてください）。

（シンポジウム全体） とてもよかったです よかった ふつう あまりよくなかったです よくなかったです
回答の理由・ご意見・ご感想をご自由にお書きください。

（交流会） とてもよかったです よかった ふつう あまりよくなかったです よくなかったです 不参加
回答の理由・ご意見・ご感想をご自由にお書きください。

（コント） とてもよかったです よかった ふつう あまりよくなかったです よくなかったです 不参加
回答の理由・ご意見・ご感想をご自由にお書きください。

（総括） とてもよかったです よかった ふつう あまりよくなかったです よくなかったです 不参加
回答の理由・ご意見・ご感想をご自由にお書きください。

II 今後の催しについて

主催の東海日本語ネットワークと名古屋国際センターは、今回のシンポジウムの他に、日本語学習支援をテーマとする研修会などを定期的に共催しています。今後のどのようなテーマ・内容・形式の催しを期待されますか。（□に✓を入れてください）

日本語学習支援活動に関する情報提供 ボランティア同士の交流の機会 日本語教室の運営方法
 日本語教授法・教材についての研修 多文化共生・国際理解等の研修 子どもへの日本語教育
 その他（ ）

III ご来場の皆様について

ご自身に該当する項目の□に✓を入れてください（複数回答可）。

日本語学習支援のボランティア 日本語学習以外の外国人住民の生活支援ボランティア
 日本語教育機関（日本語学校、大学など）の教員 学校教員・指導員 研究者 学生
 日本語教師（またはボランティア）養成講座等の講師 行政・公的機関職員 その他（ ）

IV その他、ご意見・ご感想 ※ご自由にお書きください。

（ ）

※ご協力ありがとうございました。

東海日本語ネットワーク・(公財)名古屋国際センター

